

平成**31**年度

京都教育大学大学院

教育学研究科案内

本学の目的

京都教育大学は、学芸についての深い研究と指導とをなし、教養高き人としての知識、情操、態度を養い、併せて教育者として必要な能力を得させることを目的とする。

大学院教育学研究科の教育目的

京都教育大学大学院教育学研究科は、学部における教養あるいは教職経験の上に、広い視野に立って精深な学識を授け教育関係諸科学の研究を深めることにより、教育の理論と実践に関する優れた能力を有する教育者の養成を目的とする。

専門的な学識に裏打ちされた教育実践力と研究遂行力を有して 指導的立場に立つことができる教員を養成します

京都教育大学は、優れた教員を養成するため、教科と教職に関する知識と技能、それらを基盤として教育実践のさまざまな課題に対処するための思考力・判断力・表現力等の能力を育成します。そして、教育の現場において主体的に仲間と協働して課題を解決しようとする態度を養います。このような教育と学生一人ひとりへのきめ細かい指導を通して、子どもの成長する過程に関わることに大きな喜びを感じ、人間の成長と社会の発展における教育の役割を理解して、自ら研鑽を続ける教員を養成します。

本学は、教育学部、2つの大学院研究科（教育学研究科と連合教職実践研究科）、特別支援教育特別専攻科を設け、教育創生リージョナルセンター機構を構成する3つのセンターや環境教育実践センター等の教育研究組織や教育研究施設を備えています。さらに、幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校（10年以上に及ぶ小中一貫校としての実践的研究の実績を有する京都小中学校が、国立大学の附属学校として全国初の義務教育学校として文部科学省から認可された）・高等学校・特別支援学校の附属学校園を有します。そのため、本学で学ぶみなさんは、教科や教職の専門教育・研究指導を幅広い分野で選択できるだけでなく、義務教育学校を含むすべての学校種における教育実践とその研究の指導を附属学校園で受けることができます。

本学の大学院教育学研究科（修士課程）は、平成2年（1990年）に開設され、平成6年には学校教育・障害児教育・教科教育の3専攻12専修がそろい、現在に至っています。本研究科では、学士課程における教養科目や専攻専門科目、教職専門科目の学修のうえに、教育現場での実践経験を踏まえて高度な教育関係諸科学を学び、主体的に課題探究や研究に取り組みます。そのため、

- 1) 教育の根本をめぐる思索を促し、教員として不可欠の器量を涵養する、教育理解・こども理解・学校理解のための授業科目
- 2) 各専門分野の教育研究課題に関する原理的、専門的な教育と研究を通して技能を高め、理論の理解を深めるための授業科目
- 3) 「教科教育教科内容論」などの教科専門から見た教科の教育内容に関する授業科目
- 4) 「教科教育特別演習」、「教科教育特論」などの教科教育の理論と教育実践に関する授業科目
- 5) 「教科教育実践特別演習」や「教員インターン実習」、「教職実践研究」などの、教科教育と教科専門の知識・技能や理論を活かして教育実践を行い、その結果を分析・研究する授業科目

を設置し、教育実践の内容を含む修士論文の作成に向けて学修を積み上げられるように教育課程を構成しています。特に、「教員インターン実習Ⅰ」は各自の課題を持って学校現場における教育実践の実習を行い、「教職実践研究」は様々な教科と学校種を志望する大学院学生がグループとなって、「教員インターン実習Ⅰ」の事前・事後指導と実習結果について各自の課題を出し合い実践知を交換しつつ討論・考察する、先進的な授業となっています。

本研究科では、このような教育課程によって、専門的な学識に裏打ちされた教育実践力と研究遂行力を有して指導的立場に立つことができる教員を養成するとともに、自らの職能を向上させようと研鑽し続ける現職教員を支援します。

京都教育大学長 細川 友秀

目 次

教育学研究科案内

I. 教育学研究科の専攻(専修・分野)の概要と教員の研究内容

○ 学校教育専攻	1
○ 障害児教育専攻	4
○ 教科教育専攻	5
国語教育専修	5
社会科教育専修	6
数学教育専修	8
理科教育専修	9
音楽教育専修	11
美術教育専修	12
保健体育専修	13
技術教育専修	15
家政教育専修	16
英語教育専修	17

II. 教育学研究科の教育課程等

(1) 修学の形態・方法	18
(2) 履修基準及び履修方法	18
(3) 開設授業科目	20
(4) シラバス	20
(5) 標準修業年限と長期履修学生の修業年限	20
(6) 学位及び修士論文	20
(7) 指導教員制	20
(8) 他大学の大学院における授業科目の履修及び研究指導	20
(9) 連合教職実践研究科開設授業科目の履修	21
(10) 教育学部開設授業科目の履修	21

III. 教育職員免許状, その他の資格について

(1) 教育職員免許状取得要件	22
(2) 教育職員免許以外の資格	22
(3) 現職教員学生等の事務取扱について	23

IV. 授業科目一覧

◎ 学校教育専攻	25
◎ 障害児教育専攻	26
◎ 教科教育専攻	26

V. 入学者選抜について

.....	29
-------	----

I. 教育学研究科の専攻（専修・分野）の概要と教員の研究内容

(平成30年度担当教員の研究内容)

○学校教育専攻

学校教育専修

教育学・教育史, 学校経営(教育行政学), 教育社会学, 教育内容・方法論, 道德教育, 実践教育, 教育心理学, 発達心理学, 教育臨床心理学, 幼児教育学の10分野で構成する。また, 募集区分として, 教育学・幼児教育学コース, 教育・発達心理学コース, 教育臨床心理学コースに分かれている。本専修は, 今日の学校教育に関する諸問題について, 理論的・実証的に解明し, 学校教育の発展に資することを目的とする。

そのため, 教育諸領域にかかわる基本的課題について, 専門的・原理的に研究・教育を行うと同時に, 教育実践と結び付いた具体的諸問題を理論的に探求し, 教育する。

(教育学・幼児教育学コース)

教育学・教育史

相澤 伸幸 准教授

教育哲学専攻。

研究テーマは, ヨーロッパの教育哲学の人間形成論であり, 特に近代ドイツのビルドゥング思想を軸にして, ヘルダー, ゲーテ, ニーチェといった人物を研究対象にしている。

一般的に学問としての教育哲学(あるいは人間形成論)は, 哲学のおよび歴史のアプローチによって, 教育の諸現象の本質や原理などについて考察する学であり, 理論と実践が統合された性格をもつ。そのために, 思弁的な側面だけではなく, 道德教育などの実践面も考察している。

主な著書は『教育学の基礎と展開』『学校教育と道德教育の創造』など。

神代 健彦 准教授

教育史専攻。

研究テーマは, 1950年代以降における日本の教育学説, および教育実践の歴史的考察である。「教育とは何か」という問題をめぐる学問的思考と実践の歴史的な蓄積を明らかにしつつ, さらにその批判的継承の道筋を示すことが課題である。

具体的な対象としては, 教育の原理論のほか, 日本固有の教育実践の技法である「生活綴方」や, 生活指導(学級集団づくり)の理論と実践の歴史を検討してきた。また最近では, 道德教育の学説史や, 民主主義と教育をめぐる理論的研究にも関心を持っている。

学校経営(教育行政学)

榎原 禎宏 教授

学校経営・公教育経営学専攻。

学校に代表される公教育経営を, ①中央政府と地方府の政策形成・行財政施策, ②各学校における経営活動, ③教職員の教育一学習活動を中心とした職務遂行, を包括する概念と捉え, その客観的で効果的・効率的な組織運営と主観的で満足や納得が重要な教育行為とを接合する学校経営のあり方を追究している。

近年は, 感情労働としての教育行為ゆえの葛藤や意思決定, 自己評価, あるいは各学校の経営領域としてほぼ唯一残される校内研究や授業研究に関心があり, これらに対応しうる教職学習と教育労働について, 分析と提案を行っている。

教育社会学

村上 登司文 教授

教育社会学専攻。

急変する現代日本の教育問題を客観的に考察し, 教育の現状を実証的に把握し, 社会という広い視点から学校教育を見通す批判的考察力を持つことを授業では目指している。

研究テーマは, 教育による平和な社会の形成であり, 急速にグローバル化する中で, 学校教育が平和と国際理解に果たす役割を考察している。平和形成教育について, 国際比較分析でその内容と方法の違いを検討している。また, 平和・国際理解のための教育について, 小・中・高等学校の学校段階に応じて, 教育評価とカリキュラム開発の視点から研究している。

伊藤 悦子 教授

社会教育・人権教育専攻。

授業担当は人権教育関連科目であるが, 論文指導は人権教育のみならず, 社会教育関連でも行っている。

主要な研究テーマは, マイノリティー(同和地区住民や定住外国人)の教育保障や市民の人権意識調査を通じて人権教育の内容や方法を検討することである。また, 歴史的な研究もしており, 総じて様々なアプローチで, 人権教育の歴史・現状・課題を探究している。

最近では「外国にルーツをもつ教員の研究」や「子どもの貧困問題と教員」をテーマにしている。

教育内容・方法論

徳岡 慶一 教授

教育方法学(学習指導学)専攻。

これまでの主要な研究テーマは, ①欧米の個性化教育や総合学習の研究, ②教師の実践的指導力の中核である「教える」行為について教師の知識と思考様式の観点からの研究, ③教師教育としての「教育方法学」の教育に関する実践的研究である。

現在は, 授業における教師の即時的意思決定と, 教員をはじめ保育士, 看護師など専門職の力量形成に関心を持っている。

樋口とみ子 准教授

教育方法学専攻。

カリキュラム開発論を担当。初等中等教育段階における学力の育成のあり方について研究を進めている。

なかでも, ①1980年代以降のアメリカ合衆国におけるリテラシー論議, ②日本の戦後初期の基礎学力論争, ③入門期の読み書き計算の指導法などに関心をもっている。

また, 教育評価をめぐる近年の改革にも注目し, 入試のあり方についての分析もおこなっている。理論と実践の結びつきを問いながら研究を進めていきたいと考えている。

幼児教育学

平井 恭子 教授

専門領域は幼児の音楽教育である。

乳幼児の音楽的発達には、直接には主に動きを通して達成される。そこで、その動きを通して幼児がいかに音楽的発達をしていくかということを中心に研究している。また、幼児の音楽的発達を促すための遊びや環境設定のあり方についても調査研究 중이다。

授業では、前述した内容に関連した事例について討論したり、発達を促すための遊びと環境設定、教材開発等を行う。

古賀 松香 准教授

幼児教育学（保育方法）専攻。

主要な研究テーマは、保育の質、保育者の実践知である。

現在の日本の幼児教育は子どもの主体的活動を中心としている。その子ども主体の生活や遊びにかかわる保育者は、どのような判断根拠や優先順位をもって判断し保育実践を行うのか、そこにある専門性とは何かを探る研究を行っている。

また、保育の質の向上が可能となる制度とはどのようなものか、政策的な観点から保育をみることにも関心がある。最近では、幼小接続に関する実践研究にも携わっている。

東村 知子 准教授

既存の教育や社会システムの中で何らかの生きづらさを抱えながら生きている子どもとその家族に関心があり、そうした人々の視点から教育や社会のあり方について考えている。これまでは主に障がいのある子どもとその母親の支援に焦点を当てて研究を行ってきた。現在は特別養子縁組をした家族および医療的ケア児の保育に関する研究にも取り組んでいる。

実践教育

関口 久志 教授

セクシュアリティ教育専攻。

性を人権として捉える包括的性教育の実践的研究。なかでも生涯にわたって、豊かな性を積極的に位置づけ、実りある人間関係を築いてゆくための包括的性教育を実践面から研究している。

近年の研究テーマとしては「格差貧困と性」、「これまでとこれからの性教育」など、人間のいのちと生活の尊厳確保を基盤とした多様な性的幸福追求権の保障に注目している。

高柳 真人 教授

主として、自身の高校教師経験から生じた問題意識を踏まえつつ、学校カウンセリングの枠組みで研究や実践を進めてきた。

より具体的に言えば、自分になること、自分であることが研究や実践の主たるテーマであり、これまで、自分も含めたシャイな教師の教職遂行について、また、子どもの自己実現を保証するという観点から、学校を中心とした子どもの居場所、及び、進路指導や進路相談の進め方について実証的な研究に取り組んでいる。

(教育・発達心理学コース)

教育心理学

藤岡 秀樹 教授

教育心理学・学校心理学・教育評価学専攻。

研究内容は、①学力・性格・適性の診断と評価についての学校心理学の視点からの検討、②「生活科」「社会科」「総合的な学習の時間」の授業づくり、教材開発と評価のあり方、③LD・学業不振児の診断、④学校心理学の視点に立った予防的・開発的教育相談とチーム援助、⑤へき地教育・複式学級の指導—の5点である。

著書には『学力・能力・適性の評価と指導—学校心理学の視点から—』（京都法政出版）、『小学校新指導要録記入文例1000』（日本標準）がある。

学校参観にできるだけ参加し、教育実践に結び付いた研究になるように努めている。学校心理士スーパーバイザー、臨床発達心理士スーパーバイザー、特別支援教育士スーパーバイザーとして学校心理学や特別支援教育に関する実践を行っている。

伊藤 崇達 准教授

教育心理学・学習心理学専攻。

学習心理学、とりわけ自己調整学習 (Self-regulated learning) に関する研究を専門とする。自律的な学びがどのように成立してくるかについて生涯発達の視点にもとづき、メタ認知、学習方略、動機づけ、支援ニーズなどを鍵概念にして研究を行っている。また、学校だけでなく保護者をはじめとする家庭環境のあり方や、仲間関係を通じた学びあいについても検討を進めている。

主な著書には『自己調整学習の成立過程：学習方略と動機づけの役割』（北大路書房）、『ピア・ラーニング：学びあいの心理学』（共編：金子書房）などがある。

発達心理学

田爪 宏二 准教授

発達心理学・認知心理学専攻。

認知的情報処理、特に概念や言語と関わった処理における干渉・抑制のメカニズムと、その発達に関する実験的研究を専門とする。また、子どもの概念獲得や発達、およびそこにおける臨床発達心理学的支援に関する研究にも取り組んでいる。

さらに、子どもの支援者としての教師・保育者における専門性、アイデンティティの確立や、子どもの認知発達に対する教師・保育者の認識についても関心を持っている。

主な著書は『認知発達とその支援』（共編社：ミネルヴァ書房）、『保育の心理学』（編者：あいり出版）、『心理学研究の新世紀 教育・発達心理学』（共著：ミネルヴァ書房）などがある。

（教育臨床心理学コース）

教育臨床心理学

森 孝宏 教授（保健体育専修に再掲）

思春期青年期精神医学・心身医学・学校精神保健学専攻。

元フランス政府給費留学生（パリ大学都市国際病院思春期青年期精神科）。過去には総合教育センターや教育委員会で、心身症や精神障害に限らず問題行動マネジメントや教職員支援に携わってきた。

アセスメントでは、フランスの Marty-CPS, イギリスの Reflective Functioning, アメリカの PDM, ドイツの OPD に興味がある。サイコセラピーでは、ロンドン・アンナフロイトセンターの思春期メンタライゼーション準拠療法に登録し、加えてパリ・精神分析的な心身医学研究所の立場を足がかりにしている。リサーチでは、心身相関の視点から教育現場で問題となる摂食障害（拒食症や過食症）、パーソナリティ障害などを対象とした思春期青年期のアタッチメントやメンタライゼーションに興味を持ち、イタリアを含む欧州の学校臨床心理学にも強く関心を持つ。

『子どもの成長を支える発達教育相談』第4版（共著：北樹出版）、『思春期心身症の臨床』（共著）などがある。

本間 友巳 教授

教育臨床心理学専攻。

学校教育の中で生じている不登校やいじめのような今日の諸問題に対して、臨床心理学的な視点から、事例や調査による研究を行っている。

また、カウンセリングのあり方や方法についても、実践的な研究をしている。いずれの研究も、個別的な臨床実践を基礎に、そこから得られた理解や洞察を調査等によって一般化し、再び臨床の場へと引き戻すことを繰り返すことによって、実践的な方向をめざしている。

内田 利広 教授

臨床心理学専攻。

思春期・青年期の子どもやその親に対する心理療法について研究している。特に不登校児童・生徒やその保護者に対する心理面接について、家族療法的な視点や体験過程療法の視点から検討している。また、スクールカウンセラーの役割や機能、教師の学校教育相談の実践についても関心を持っている。

授業では、生徒指導や教育相談の実際問題について、臨床心理学的な視点からの児童生徒理解や具体的な対応について検討している。

主な著書は『期待とあきらめの心理』（創元社）、『スクールカウンセラーの第一歩』（共著：創元社）、『学校カウンセリング入門』（共著：ミネルヴァ書房）、『生徒指導と教育相談』（共著：創元社）などがある。

小松 貴弘 教授

専門領域は、臨床心理学および精神分析的な心理療法。

研究においては、さまざまな不適応の問題を解離およびナルシズム（自己愛）の問題という文脈で捉えることを試みながら、心理療法、カウンセリング、そして日常的な対人関係において、どのような関係のあり方が問題への援助になるのかを探究している。

授業においては、問題をアセスメントし適切な援助関係を育む基礎的な力の養成を目標とする。

西村 佐彩子 准教授

臨床心理学専攻。

精神分析的な心理療法、特に対象関係論をオリエンテーションとしている。

これまで病院臨床、スクールカウンセラー、私設心理相談など複数の現場で臨床活動を行ってきた。大学院では「臨床心理査定演習」を担当しており、それぞれの臨床現場の特徴や対象者に応じた関わりを考えていく上でも、心理アセスメントは重要であると考えている。研究は「曖昧さ」をテーマに、曖昧さへの態度という視点から心理臨床的な理解を試みることを、調査研究・事例研究を通して行っている。

○障害児教育専攻

障害児教育専

教育学、心理学、生理・病理の3分野において、障害児教育の諸問題を理論的、実証的に研究することを目的とする。また地域の実情を考慮しながら、生涯教育と関連させて社会的、福祉的側面からも、その課題解決の理論及び実践の具体的方策を総合的に研究し、教育する。

障害児教育

相澤 雅文 教授

知的障害児・発達障害児および「気になる」子どもの教育ニーズに対応した発達支援の構築、授業づくりを専門領域とする。

「子ども-子ども」や「子ども-大人」の相互作用による発達・行動への影響に関心がある。子どものWell-Beingや集団適応に困難をかかえる児童生徒の社会性発達に関する研究に取り組んできた。特別支援教育臨床実践センターでの発達相談、小集団活動の他に滋賀、大阪、京都のサポートチームでコンサルテーション等を行っている。

佐藤 克敏 教授

心理学的及び教育学的な観点から、知的障害・発達障害等のアセスメントと指導方法について研究することを主な専門としている。また、知的障害・発達障害等の後期中等教育以降の課題と支援、通常のクラスの中でのLD、ADHD、高機能自閉症の配慮や指導方法の在り方なども研究している。

授業では、障害のある子どもの指導や授業の改善に必要な事柄について、ディスカッションやグループワーク等を利用してしながら検討する。

丸山 啓史 准教授

学校教育だけでなく、社会教育や社会福祉の領域にも視野を広げながら、障害児者の教育・学習について研究を進めている。

特別支援学校高等部における教育の課題、18歳以降における教育・学習の保障について検討してきた。また、障害のある子どもの放課後・休日の活動に関心を向けるとともに、母親の就労保障、「子どもの貧困」、教育・福祉の家庭依存など、障害のある子どもの家族をめぐる問題を考えている。

障害児心理

佐藤 美幸 准教授

障害児者を対象とした応用行動分析学、臨床心理学を専門領域としている。

特に、機能的アセスメントに基づく問題行動への対応および適切な行動の獲得を中心として臨床実践と治療教育の効果検討を行っている。

近年は、不登校や不安・抑うつといった2次障害が生じた際の対応として注目されている認知行動療法の効果についても研究を進めてきた。これらの治療教育を学校の教員が実践することができるよう教員研修プログラムの作成を目指している。

障害児生理・病理

小谷 裕実 教授

障害のある子どもたちの早期診断と療育、保護者支援、学校での対応を医療的な視点で検討することを専門とする。近年は、発達障害児の気づきから就労に至るまで、生涯にわたる一連の支援をつなげるシステム構築や、企業における就労支援を研究テーマとする。

また、学校現場では、幼稚園から高校までの通常の学級における発達障害児者への対応を、京都府・京都市教育委員会のサポートチームの委員として、コンサルテーションしている。

牛山 道雄 准教授

発達障害学を専門領域とする。特に、知的障害児・者の手指技能に関して、認知・運動学的観点からアプローチを行っている。

知的障害児・者が周囲の物理的・意味的環境からどのような情報を読み取り、それらをどのように運動行為に反映させていくのか、その一連のプロセスの解明を通して、具体的な支援方法を考案することを目指す。

○教科教育専攻

国語教育専修

国語科教育, 国語学, 言語学, 国文学, 漢文学の5分野で構成する。
各学問分野の研究を深めるとともに研究成果を有機的に関連づけて, 国語教育の深化と総合化を図ることができる教育・研究者を育成する。

国語科教育

植山 俊宏 教授

読むことを中心に国語教育全般について研究している。
説明的文章, 論説文・評論文などの論理的な文章の読みに関わる研究が中核である。
歴史的研究, 教材論研究, 授業研究, 実験的研究授業など総合的な研究方法を採りながら国語教育の体系に位置づけられるように探求している。
また問題解決に着目した文学の読みの研究も進めている。
その他創作を中心とした短歌・俳句などの韻文教育研究, 相互評価的方法に基づく作文教育研究にも取り組んでいる。

寺田 守 准教授

読むことの教育を研究している。読者の反応に基づいた文学教育の在り方について, 英語圏の母国語教育の動向を手がかりとしながら, 考察している。
テキストは同時代の言説が編み込まれた織物であり, 読者の解釈もまた様々な言説で構成されている。間テキスト性概念をキーワードとした読書行為の解明と指導法の開発を目指している。
その他, 映像を〈読む〉行為として, メディアリテラシー教育にも関心を持っている。

国語学

中俣 尚己 准教授

現代日本語の文法を研究している。
近年はコーパスと呼ばれる大規模な電子的言語資料を用い, 機能語と実質語の組み合わせの偏りに注目することで, これまでに発見されていない言語現象の記述や, 言語項目の難易度の測定を行うことを目指している。
その他, 中国語と日本語の対照による中国語話者のための日本語教育文法の構築, 「その程度」「こんなもの」といった評価的な意味の記述, 談話における話題, ICTを用いた外国語学習などのテーマについても, 研究を進めている。

国文学

宗雪 修三 教授

平安朝物語文学のテキスト論的研究。
『源氏物語』をはじめとする平安朝物語文学の諸作品において, 雑多な表現事象の中から統一的主题を析出する主题的表現論を批判的に捉え返し, テキスト論的分析をとおして, 雑多なものや異質なものをそのまま肯定し, 複数の読みや多元的価値を認めてゆくことによって, 物語を産み出し継続させてゆく力を明らかにし, 文学の権力的側面を暴きつつ, 一方その価値の豊饒性をも説明することを課題とする。

天野 知幸 准教授

日本近現代文学の研究を行っている。とくに敗戦直後の文学テキストにおけるジェンダー, セクシュアリティ, 身体表象の特性について考察しているが, 「引揚」「外地」の語られ方などアジア太平洋戦争に関する文学表象分析も行っている。
また近年は, GHQ占領期に行われていたGHQ/SCAP検閲の実態について調査している。検閲制度を検証するとともに, そこではどのような表現活動が可能/不可能であったのか, そして, それがいかなる変容を言論・表現活動に与えたのか/与えなかったのか, について研究している。

漢文学

谷口 匡 教授

中国の文章とそのジャンルを研究テーマとしている。
特に唐宋代の文章, またそれに多大な影響を及ぼした『史記』について, 表現やジャンルの面から研究を行っている。
その他, 日本人と漢詩文の関わりにも大きな関心を持っている。国語教育の方面では, 音読を中心にした新しい漢文教材と指導法の開発に取り組んでいる。

言語学

濱田 麻里 教授

専門分野は日本語教育・国際教育。
現在は(1)年少者に対する日本語教育の内容と方法に関する研究, (2)国際教育に携わる教員に必要とされる資質の養成に関する研究, などの領域を中心に研究を行っている。
ことばの習得を社会的環境との関連の中で考えていきながら, その過程を支援する教師の「育ち」に迫りたいと思っている。

社会科教育専修

社会科教育、歴史、地理、政治、法律、経済、社会学、哲学・倫理学の8分野について、理論的・実証的な研究を行う。これらの研究成果を基盤として、高度の科学的分析力と総合力の養成を目指す。また授業に関する実践的な研究を重視して、指導力や創造的能力の育成を図るとともに、講義・演習や野外実習等に各分野の学問的特色を生かして、系統的な教育研究能力を養う。

社会科教育

山下 宏文 教授

社会科教育学専攻。

研究分野は社会科教育で、特に環境教育の研究に重点を置いている。

環境教育では、エネルギー環境教育や森林文化教育などを中心にしている。大学院の授業では、国内の最近の社会科論ばかりでなく、外国の社会科に関連する教科や日本の戦後のカリキュラムや学習論にも目を向け、比較教育学的な視点も導入して、社会科教育のあり方を追究する。

また、演習では、環境教育を中心に、社会科の教材開発(方法論→調査・研究→教材化→授業化)を行う。

地理

香川 貴志 教授

地理学(人文地理学)専攻。

大都市を主とする都市的地域において、住宅立地にともなう地域変化や居住者の属性の変化を追究している。

研究の基盤を地理学に置きつつ、住宅政策分野や都市計画分野で培われた視点を織り混ぜて、研究の深化を図っている。

また、近年は自然災害に対する防災・減災教育の国際比較研究に着手しており、安心して暮らせる都市や住宅の創造に向けて関心領域を拡張しつつある。

授業では、野外調査における地域観察の技法、地域特性を把握するための大縮尺地図の活用など、教育実践に応用しやすい内容を積極的に盛り込んでいる。

歴史

武島 良成 准教授

日本近現代史、東南アジア史専攻。

「太平洋戦争」の意味づけを、実証的・総合的に行うことを目指している。史料の発掘・整理も自らの課題としている。伝統的な日本史、東洋史(あるいは西洋史)というカテゴリーに縛られることなく、研究を時間的・空間的に広げていきたい。

その他、京都の地域研究、歴史趣味と歴史学との関係などにも興味を持っている。

政治

荻野 雄 教授

政治思想史専攻。

特に、一九世紀後半から現代に至るまでの、ドイツを中心とした政治思想・社会思想を研究している。具体的には、ジンメル、クラカウアー、ヴァールブルクといった、哲学や社会学を越境して活躍した思想家たちの、近代論や都市論、メディア論等を考察している。

最近では、高田保馬、清水幾太郎など日本の思想家、社会科学者にも関心を抱いている。

授業では、政治に関するトピックを幅広く扱っている。

斉藤 恵太 講師

近世ヨーロッパ史専攻。

15～18世紀のヨーロッパでは、官僚制や常備軍などの国家的制度が成長する一方で、血縁・地縁・交友など、人的な結びつきが公的生活のあらゆる領域で大きな意味を持った。この点に関して、17世紀ドイツの官僚機構や軍隊に着目して研究を進めている。

最近ではイタリアやフランスにも目を向け、貴族をはじめとする当時のエリート層が取り結んだ越境的なネットワークの射程と機能を比較検討している。

中村 翼 講師

日本中世史、海域アジア史専攻。

主に10～15世紀初頭の日本と東アジアの交流を担う商人や僧侶の活動について、彼らをとりまく環境の変化に注意しながら、その実態および歴史上の意義を研究している。最近では、東アジアを往来し、「倭寇」などと呼ばれた人々の実態解明を目指している。また、高大連携による歴史教育の刷新とそのためのネットワークづくりにもとりこんでいる。

授業では、京都・文化・もののけ姫をテーマに日本の歴史(前近代史)をひもといていく予定。

法律

比良 友佳理 講師

法学専攻。

特に知的財産法を中心に研究をしている。最近は、著作権法と憲法上の表現の自由の関係について、比較法的観点、制度論的観点からの研究を進めている。

大学院では、学校現場に必要な著作権法、知的財産法の知識や、時事問題を活用した法教育を行う上で基礎となる法的思考力を身につけることを目標とした授業を行っている。

経済

石川 誠 教授

経済学専攻。

経済発展における公共政策の果たす役割について研究を進めている。適切な経済運営のためには、政府による金融、財政などの様々な政策が必要となるが、それらの政策がどのような経済的効果を有するかということを主要研究テーマとしている。

最近、諸政策の中でも、社会にとって有意義な技術開発をもたらすための技術政策と適切な環境保全をもたらすための環境政策を研究の対象としている。授業では、これらにとどまらず、教育制度の経済学的な分析なども扱っている。

社会学

土屋 雄一郎 准教授

社会学、環境社会学専攻。

「迷惑施設」と呼ばれる廃棄物処理施設の立地計画に関わる合意形成プロセスを地域社会のフィールドワークによって調査している。参加型民主主義における公益と私権との関係のあり方や、その関係の正当／正統性の根拠は何か、また、環境リスクの負担を世代間的な視点からいかに考慮すべきなのか。「環境」という課題によって提起される空間的、時間的制約のもとで合意形成をめぐる新しい方向性を展望するための研究に取り組んでいる。

哲学・倫理学

平石 隆敏 教授

社会哲学・倫理学専攻。

哲学・倫理学分野で「社会哲学特論」と「社会科教育教科内容論」を担当。人々の共存する「社会」という場に生じる原理的諸問題に関する社会哲学的な研究、およびより現代社会の具体的な場面での（生命倫理学、環境倫理学等の）応用倫理学を主要な研究テーマとしている。

また最近、マスメディアやジャーナリズムの倫理学、さらに教育における新聞の活用（NIE）にも取り組んでいる。

数学教育専修

数学科教育, 代数学, 幾何学, 解析学, 応用・情報数学の5分野において, 諸科学の基礎としての数学の重要性を考慮し, 5分野相互の関連に留意しながら, 数学教育の専門的かつ系統的な研究能力と実践的な教育能力の向上を図る。

数学科教育

柳本 哲 教授

専門分野は, 数学教育学。

算数・数学のカリキュラム・教材の開発, 特に数学の応用教材についての研究を行っている。

大学院では, 数学的モデリングに関する実践的研究についての指導を行う。

黒田 恭史 教授

専門分野は, 数学教育学。

算数・数学教育の中の, とりわけ幾何教育の内容開発を中心に研究を行っている。

また, 算数・数学学習時の脳活動, 視線移動, 脈拍変動などの計測・分析から, 数学教育研究における生理学データを用いた学際的な研究領域の構築に取り組んでいる。

大学院では, 算数・数学教育全般の内容を対象に, 児童・生徒の認識特性に応じた教育内容のあり方や, シンガポール, 中国等の算数・数学教育との比較研究などを取り上げる。また, 生理学データ計測装置を用いたデモンストレーションなども, 院生諸君のニーズに応じて行う。

代数学

宮崎 充弘 准教授

専門分野は, 可換環論。

様々な分野に現れる可換環は, 基礎体上の生成系と, いくつかの関係式によって表されていることが多い。その中には, 生成系間の関係式や, その環の元の標準的な表現が組み合わせ論的な言葉で記述されるものがある。

上記のような可換環をモデルとして抽象化したものを考え, そのような環において可換環論で定義された諸性質と, 組み合わせ的な構造との関連を探っている。

また最近では, 行列の高次元版であるテンソルの階数について, 可換環論との関連を中心に研究をしている。

幾何学

横山 知郎 准教授

専門分野は, 幾何学。

特に, トポロジーと力学系を研究している。より具体的には, 3次元空間の流れや曲面上の流れや, 余次元1, 2の葉層構造などに興味を持っている。また, 応用として, これらの研究と現実との関わりについても興味を持っている。

大学院では, 上記に関係する研究を行う予定である。特に, 研究者志望の人を歓迎する。

解析学

大竹 博巳 教授

専門分野は, 複素解析学専攻。

専門は擬等角写像およびリーマン面や不連続群のタイヒミュラー空間とその応用であって, 特に極値的擬等角写像, 部分擬等角変形および正則保型形式の空間の持つ性質とそれらのタイヒミュラー空間論への応用について研究している。

担当科目においては, 上記研究分野にとらわれず, 現在の解析学において新たな関心を持たれ始めている内容とその教材化について, 受講者の適正を踏まえた上で, 論じて行きたいと考えている。

深尾 武史 教授

専門分野は, 解析学。

熱水力学に現れる様々な非線形放物型の偏微分方程式を開数空間上での常微分方程式と捉えることで, 関数解析の手法を用いて可解性やその周辺について研究を行っている。

特に, 劣微分作用素と呼ばれる多価作用素や擬単調作用素と呼ばれる作用素の取り扱いに興味がある。

また, 複数の偏微分方程式が連立した系に対して, 従来の単独方程式に対する可解性の議論がどこまで応用できるか, 解の滑らかさを中心に研究している。

応用・情報数学

川原田 茜 講師

専門分野は, 応用数学・情報数学。

セル・オートマトンと呼ばれる数理モデルを中心に研究している。離散数理モデルと連続数理モデルとの関係性に興味を持っており, 数値実験や統計的手法によってアプローチしている。

大学院では上記の研究とその関連分野について論じていく予定である。

理科教育専修

理科教育, 物理学, 化学, 生物学, 地学の5分野とそれらの諸領域(理科教育目的論・内容論・方法論, 素粒子物理学, プラズマ物理学, 生物化学, 分析化学, 有機化学, 生態学, 分類学, 発生学, 地層学, 地震学)について, 自然科学の急速な進歩と京都の地域性を考慮しつつ, 相互に有機的関連をもたせながら, 専門的な研究・教育を行う。あわせて教育実践と結びついた教育研究能力の向上を図る。

理科教育

村上 忠幸 教授

探究学習・活動について教材・プロセス・カリキュラムの開発とその実践, および理論構築を行っている。

特に前仮説段階を考慮した探究プロセスを開発し, マルチプルインテリジェンス理論, messing about 理論等を活用して経験学習の視点からその実践的な応用性・適応性について検討している。同時に, オランダ, 英国, フィンランド等の探究学習, 総合学習について, 特に多様性・個別学習という観点から研究している。

また, ポスト近代社会, 科学技術文明の浸透した社会における理科に対する市民の意識構造について調査検討している。

中野 英之 准教授

天文工作, 地学的スケールで起きる自然現象を再現するモデル実験の開発, 地層のはぎ取り標本の製作など, 主に天文分野・地学分野におけるものづくりの視点に立った教材開発と教育実践を行っている。

また, 放射性セシウムが沈着した里山の保全と風評被害, 災害復興教育に関する研究も行っている。

物理学

高嶋 隆一 教授

加速器を使って, 物質の基本粒子の性質を探る実験的研究を行っている。

CERNにおいて実施されている重心系衝突エネルギー14テラ電子ボルトの陽子・陽子衝突加速器を使うATLAS実験に参加している。素粒子の質量の起源, 粒子反粒子対称性の破れの問題に関する新たな知見を得ることを目標としている。

谷口 和成 教授

児童・生徒の認知発達や学習に対する動機づけの状況をふまえた, アクティブ・ラーニング型の理科授業展開・教材・評価法について, 教育現場との連携の下, 理論的, 実践的に研究を行っている。

また, 物理教育における生徒の課題研究(探究活動)を支援する方法論およびその評価法について, プラズマ物理学の分野を例に具体的に検討, 提案している。

化学

巻本 彰一 准教授

高圧力下における酵素の反応機構の解明と酵素タンパク質の安定性の研究という2つの研究テーマを行う。

酵素の高効率性, 高選択性, 調節作用という機能が, 立体的に配置されたアミノ酸残基のどのような協同的触媒作用によって行われているのかを, 酵素反応速度論の視点から明らかにしようとしている。酵素タンパク質には, その高次構造が維持できる環境条件がある。酵素の高次構造とその機能には密接な関係があり, 安定性と高次構造との相関を調べている。

また, 高等学校化学の教科書内容の検討と教材研究を行っている。

向井 浩 教授

分離試薬としての新しいキレート試薬の開発, 液-液相間の金属キレートの分配平衡の研究およびその分離分析への応用を行う。すなわち, 金属キレートの構造と反応性の相関や, 2液相における金属キレートの生成や分配などの溶液内化学平衡を考察し, 液-液分配の分離系に適用する。また, それらを利用した湖沼などの水圏の分析化学および新しいイオン選択性電極の開発などの研究も行う。

これらの研究を通して培った方法論を, 高等学校化学等での教材に応用することにも取り組んでいる。

鈴木 祥子 講師

標的となる様々な有機分子を, 効率よく合成する方法論の開発を行っている。特に, 金属錯体などを触媒として, 不活性な分子の活性化と, 反応における位置, 立体など様々な選択性を制御した, 高効率な触媒的有機反応の開発を目指している。また, 開発した触媒的有機反応を鍵として有用有機分子の新たな合成法に関する研究も行う。

梶原 裕二 教授

組織学, 実験形態学を元にした生物教育に関する教材開発を進めている。

また, 有膜類に属するマウスやニワトリの初期胚や器官形成期胚を用いた先天異常学や実験発生学の研究を元にした生物教育に関する教材開発の研究に取り組んでいる。

今井 健介 准教授

植食性昆虫-寄主植物相互作用の進化生態学を主な基盤として, 里山の劣化や都市化, 都市緑地の孤立化が生態系に及ぼす影響を研究している。

また, 進化生態学や環境生物学理論の導入により, 身近な生物の生態の再発見と教材化を試みている。

藤浪 理恵子 講師

植物の基本的な器官である根と茎が, どのように進化して獲得されたのか, ということをも明らかにするために進化発生学的観点から研究を行っている。

また, 私たちの身近に存在する植物の形を題材に, 系統関係や環境適応に基づいた教材開発を目指している。

田中 里志 教授

私たちの身近に見ることができる地形, 地層, 化石ならびに岩石など地学的な自然を材料として, それらの形成過程や背景となる環境を明らかにするとともに, 小・中・高等学校理科のための教材研究や教材開発を進めている。

また, 地学のもつ性質を活かし環境教育や防災教育の観点からも研究を行っている。

谷口 慶祐 准教授

断層破砕帯の力学的な性質の解明を研究テーマとしている。

断層でのずれ運動が地震を起こす原因であるが, その断層が普段どのような状態にあるのか, 断層ごとに状態にどのような違いがあるのかなど, 基本的な性質はまだよく分かっていない。そこで地球潮汐や地震波を断層で観測することにより, 断層の状態をより詳しく解明することを目指している。

音楽教育専修

音楽科教育, 器楽, 声楽, 作曲, 音楽学の5分野で構成する。本専修は, 学部における基礎的教養あるいは教職経験の上に, 音楽独自の体系的な研究と表現上の技法について研鑽を深め, 音楽科教育の理論的, 実践的問題について, より高度な研究を行う。さらに, これらの総合的研究・教育により, 指導者としての優れた能力を有する人材を育成する。

音楽科教育

清村 百合子 教授

「音楽科教育授業研究」, 「音楽科教育実践演習」を担当。専門は音楽科教育実践学である。

小・中・高等学校の音楽科の授業実践を研究対象とし, 理論的枠組みに基づいて実践分析を行うという研究方法をとっている。

教育実践学の研究を通して得た知見が, 現場の教育実践におけるカリキュラム作成, 授業づくり, 指導方法に影響を与えるものとなるよう, 大学院の授業やゼミでは, 常に「理論」と「実践」の関連を重視している。

樫下 達也 准教授

「音楽科教育特論」, 「音楽科教育特別演習」を担当。専門は教育史学(音楽教育史)である。

近代日本の学校音楽教育における実践と, それを支えた思想や教師たちの運動, さらに行政や楽器産業界の関わりを歴史の視点から明らかにし, そこから現在および将来の音楽教育への示唆を得ることをめざしている。

授業では, 古今東西の音楽教育思想や実践にかんする論文や文献を読み, それらが現在の音楽教育とどのようにつながっているのかを, 講義および演習の形式で探求する。

器楽

小笠原 真也 教授

「器楽特論Ⅰ・Ⅲ」と「音楽科教科教育内容論Ⅳ」を担当しており, 専門はピアノ演奏である。

「器楽特論Ⅰ・Ⅲ」では, 器楽作品の教材化についてどのような視点が考えられるか, 個々の作品を分析し, 表現方法などを検討することで, 音楽科授業での教材化の可能性を研究する。

「音楽科教科教育内容Ⅳ」においては, 音楽的知識や能力を教育現場において, 実践的に役立てられるよう, 特に器楽作品の変遷について概観し, ささまざまな様式や特徴を理解することで, 各時代の作品理解の一助とする。

山口 博明 教授

「器楽特論Ⅱ・Ⅳ」と「音楽科教育教科内容論Ⅰ」を担当しており, 専門はピアノ演奏である。

「器楽特論Ⅱ・Ⅳ」では, 西洋音楽における『器楽』作品に表現されている作曲家の意図を読み解いてゆき, それを楽器で表現することをテーマとする。

「音楽科教育教科内容論Ⅰ」では, 現場で活用されているテキストを中心に, 演奏効果を考えた表現法や実践的な伴奏法などを, あらゆるシチュエーションを想定した上で, それぞれの内容に合わせた形式で探求する。

声楽

田邊 織恵 准教授

「声楽特論」, 「音楽科教育教科内容論Ⅱ」を担当。専門は声楽である。

「声楽特論」では, イタリア近代歌曲, 日本歌曲, フランス歌曲, ドイツリート, モーツァルトのオペラアリアを中心に, それぞれの国の文化や言葉, 声楽様式の違いなどの特徴を研究する。

また, 作曲家や詩についての分析を行い, それに裏付けられた表現法, 発声法を身につけることを目的とする。

「音楽科教育教科内容論Ⅱ」では, 歌唱共通教材を主な題材とし, その作品の内容と歌唱法, 指導法を実践分析を通じて行う。また, オペラ作品からアリアや重唱を取り上げ, 演奏発表を行う。

作曲

増田 真結 講師

「作曲特論Ⅰ」, 「音楽科教育教科内容論Ⅲ」を担当。専門は作曲である。

授業では楽譜を音楽理論の観点からとらえることを主題とし, 研究を通じて感性を適切な根拠によって裏付ける能力を身につけることをめざす。

「作曲特論Ⅰ」では五線譜のみならず多様な楽譜を研究することで音楽と記譜の関連を考察し, 自ら見出した主題を楽譜によって表現する。「音楽科教育教科内容論Ⅲ」では楽譜に書かれた情報を分析によって整理し, 表現や鑑賞と関連づけることで知識を実践へと応用する。

音楽学

田中 多佳子 教授

専門は音楽学。

瞬時に消えてしまいとらえがたい音楽という現象を, いかにか客観的な方法で分析し, 誰にでも納得できるように言葉で説明するか, という学問である。授業では, 音楽研究に必要な, 資料・情報の収集, 分析・文献批判, そして論文執筆, 発表に至る基礎的能力を養うことをめざす。

「音楽学特論」では, 受講生の関心に即した研究論文を全員で分析して討論し, 音楽研究と論文の基本的形式を学ぶとともに, それに必要な基礎知識や批判力を身につける。

「音楽科教育実践特別演習」では, 教科書掲載の個々の教材に関する研究を深め, 児童・生徒の発達段階にふさわしい授業化のあり方を考えるとともに, 教育・研究で収集したデータを整理するためのデータベースの基本的構築法や活用法を具体的に身につけ, また, 研究発表でのプレゼンテーションの方法なども学習する。

美術教育専修

美術科教育、絵画、彫刻、工芸、デザイン、書道、美術理論・美術史の7分野で構成する。本専修は、学部における基礎あるいは教職経験の上に、京都の美的伝統を生かし、理論と制作の専門研究を通して、美術教育の高度な実践的・創造的研究能力を備えた指導者を育成する。

美術科教育

村田 利裕 教授

美術教育学専攻。

「美術科授業特別研究」、「美術科教育特論Ⅱ」等を担当。子どもの心身の成長の発達に美術教育がいかに貢献できるのか、子どもの心の力をいかに育てるのか、教材と授業の開発・分析を通して研究している。

中心的視点としては、学習者中心の教育論を展開、基本的な紙素材から新教材であるCG映像教材までの多様化する教材の系統化と評価法を検討している。

また、「実践」と「教師教育」を重視し、カリキュラムの分析や改善方法の検討を課題としている。

研究物としては、『美術教育の理念と創造』（黎明書房、1994）、「授業過程分析のためのPAD授業過程分析図の開発と教師間交流場面での効果」（日本美術教育学会、1991）、『アート教育を学ぶ人のために』（世界思想社、2005）などがある。

日野 陽子 准教授

美術教育学専攻。

人が生まれてから、義務教育課程を終えた後も生涯に渡って継続されるような美術教育の在り方や可能性を探っている。

社会や学校で行われている美術教育の諸場面に参加・観察し、事象の意味を読み取っていきながら、美術（表現・鑑賞）・人間・教育の本質的な関係性を検討し、より豊かな場面づくりへの工夫を考える手立てとしたい。

研究・実践としては、学校の図工・美術の授業への参与観察、視覚障害がある人々と共に行う美術活動、病院で行われている美術教育や美術環境づくり等に関わり、美術教育全体の幅や奥行きを耕したいと考えている。

彫刻

谷口 淳一 特定教授

彫刻のもつ素材の特質を生かした主題表現の高度な技法を探究している。

主に塑造による造形を通して、多岐にわたる表現技法を探究し、創造的で確かな立体表現を制作している。

又、テラコッタによる表現技法を研究し、現代的な造形になりうるために表現の可能性を探り、実験的な制作研究を進めている。

教育面においては、彫刻が学校教育や生涯学習の中でどのように人間とかがわっていくかを研究している。

工芸

丹下 裕史 教授

陶芸制作。主に型による成形技法を用い、白磁による磁器表現の造形的可能性について研究を行なっている。

工芸制作は作者の感性と素材、技法の重なり合う部分を見つけていく道のりのようなものとする。工芸の教育的意義も、その道のり、つまり「素材」が「もの」に生まれかわるプロセスと「人」との関わりの中にあるのではないだろうか。

その他の研究キーワード：「陶芸ワークショップ」「野焼き／楽焼」

デザイン

安江 勉 教授

デザインは人間の生活営為に密接にかかわっており、実社会において活用されることで初めて成立する。

よって、私の研究対象であるグラフィックデザイン・写真においても、生きたデザインを実践することを目指している。

書道

岡田 直樹 教授

伝西行筆の一条撰政集を基調とした制作を通して、仮名の書美の研究を行っている。

演習においては、仮名古典を基とした制作をすることにより、さまざまな仮名の書美を理解すること、表現の基礎を身につけることを主とし、「書道教育特別研究」では、生徒の能力に応じた学習指導法はどうか、どのような学習指導法が個性的な表現の指導に効果的であるかを、制作を通して得られたものを基とし探究する。

美術理論・美術史

山内 朋樹 講師

芸術の理論と実践の双方に関心を持っている。

美学・美術史研究を背景に、ジル・クレマンをはじめとする現代ヨーロッパの庭や公園のありかたを考察。その源泉を近現代の庭園史に探っている。

教育とのかかわりでは、教育制度の周縁で展開される活動と空間に注目しており、都市部の子どもたちの遊びと造形活動の場となっているプレイパークを調査予定である。

芸術活動として「仮止めされた風景」（KYOTO

EXPERIMENT2014 フリンジ企画、2014年）、「地衣類の庭」

（第8回恵比寿映像祭、2016年）など。訳書にジル・クレマン『動いている庭』（みすず書房、2015年）。

保健体育専修

保健体育科教育, 体育学, 運動学, 学校保健の4分野で構成し, それぞれの学問分野の成果を踏まえて, 理論的, 応用的, 実践的研究を行う。これらの専門分野を保健体育・スポーツ教育の理論として統合, 発展させるとともに, 高度の実践的研究能力を備えた指導者を養成する。

保健体育科教育

井谷 恵子 教授

保健体育科教育学を担当し, 体育カリキュラムを主な研究対象としている。

近年のアメリカにおける全国基準の設定やフィットネス教育に着目し, その理念や教授内容・方法を検討するとともに, わが国における子どものからだの教育について, フィットネス教育の理念や方法を用いたプログラム開発に着手している。

一方, 体育カリキュラムのポリシークスについて, 教育政策, 文化, ジェンダーなどの視点から検討し, すべての人々に公正なカリキュラムのあり方について研究を進めている。

小松崎 敏 准教授

体育科・保健体育科教育学を専門領域とし, 各種の授業観察法や評価法を活用しながら, 体育授業研究を行っている。

体育授業における学習成果とは何なのか。学習成果につながるような教材, 教具, 学習活動にはどのようなものがあるのか。既存の運動活動にとらわれない多様な観点から検討している。

また, 大学や大学院等の教員養成段階で活用可能な, 模擬授業やマイクロティーチングを取り入れた体育教師教育プログラムの開発および実践を行っている。

体育学

林 英彰 准教授

体育思想史。西洋古典, 特にギリシアの体育思想および身体・運動文化の研究。

プラトンやアリストテレスらの教育哲学においてギムナステイケーなど身体訓練にかかわる技術がどのように導入され位置づけられてきたかという問題が主たる関心事であるが, それに伴い, 身体という概念の成立, 心身関係の把握, オリンピア祭に代表される競技会の歴史や意義なども研究テーマに加えている。

中 比呂志 教授

「体育経営管理学特論」, 「保健体育科教育教科内容論Ⅲ(体育経営管理学)」, 「保健体育科教育実践特別演習」を担当。

子どもを取り巻く外遊び環境が悪化する中, 子どもの体力向上や身体活動量の確保を考えた場合, 全ての子どもに保証されている学校体育の役割は, 非常に重要な位置にある。

運動経験の二極化が進む中, 教員の努力とともに, 組織的・長期的な視点での取り組みが重要となる。限られた学習時間の中で, 各種運動の育成・定着・発展を図るためには, 長期的・全学的な視点での学習指導計画が重要となる。

また, 学年の進行に伴う子どもの体育授業に対する学習意欲の低下が懸念されている。楽しい体育を保障するためには, 技能の獲得も重要であり, 「できる」ことの体験は有能感や自己肯定感に影響を与え, 生涯スポーツへ繋がると考えられる。小学校低学年の遊びの運動から, 小学校高学年や中学での各種運動への学習を通して, 子どもにどのような運動感覚や動き方, 技能, 知識を身につけさせるかは非常に重要な課題である。

現在は, このような視点から, 体育授業の学習指導計画の在り方や保健体育のカリキュラムマネジメント, 技能の系統的学習指導の在り方, 体育授業における視覚的教材の導入や ICT の活用, 体育授業におけるユニバーサルデザインといった点について研究を進めている。

さらに, 企業クラブの廃部や学校運動部活動の地域への移行が議論される中, 運動部活動のマネジメントや地域のスポーツクラブ等の外部組織と学校との連携, 生涯スポーツ社会に向けた地域スポーツ施設や地域スポーツクラブの経営やその組織マネジメントの在り方についても研究を進めていきたい。

遠藤 浩 准教授

野外教育を専攻。

自然の中での幅広い教育活動による心身の健全な育成に関する研究をしている。

特に, 冒険教育(アドベンチャー・プログラム)に関する研究においては, 児童生徒のみならず青年層における教育効果について調査している。

こうした研究を進めるために通年で教育キャンプを企画・実施しており, 指導法の開発および指導者養成におけるテーマについても研究している。

藪根 敏和 教授

武道の意義とそれを実践・教育するための方法について研究している。従って、講義・演習においても、以下の内容が中心となる。

- ①「道」とは、何を意味するか。
- ②戦国時代から江戸時代にかけて成立、発展した各種武芸流派の創始者、或いは中心人物が、どのような事を目的としていたか。また、その目的達成のためにどのような手段を用いたか。
- ③武道の技術、或いは立ち居振舞いなどの動作と「道」には、どのような関連があるか。

小山 宏之 准教授

研究領域はスポーツバイオメカニクス。

授業は身体運動学特講などを担当。

運動学習を効果的にするための方法をバイオメカニクスの観点から研究している。

ハイスピードカメラ、3次元モーションキャプチャなどの測定機器を用いて、動作を客観的、定量的に分析し、体育やスポーツ活動において効果的なトレーニング方法、指導方法を検討するための基礎的知見を提供していく。

さらに、分析対象を小学生からトップアスリートまでの幅広いレベルの動きに焦点を当て、その評価をグループおよび事例的に検討し、個々の動きのメカニズム、動作習得の方法について研究していきたい。

森 孝宏 教授

思春期青年期精神医学・心身医学・学校精神保健学専攻。

元フランス政府給費留学生(パリ大学都市国際病院思春期青年期精神科)。過去には総合教育センターや教育委員会で、心身症や精神障害に限らず問題行動マネジメントや教職員支援に携わってきた。

アセスメントでは、フランスの Marty-CPS, イギリスの Reflective Functioning, アメリカの PDM, ドイツの OPD に興味がある。サイコセラピーでは、ロンドン・アンナフロイトセンターの思春期メンタライゼーション準拠療法に登録し、加えてパリ・精神分析的な心身医学研究所の立場を足がかりにしている。リサーチでは、心身相関の視点から教育現場で問題となる摂食障害(拒食症や過食症)、パーソナリティ障害などを対象とした思春期青年期のアタッチメントやメンタライゼーションに興味を持ち、イタリアを含む欧州の学校臨床心理学にも強く関心を持つ。

『子どもの成長を支える発達教育相談』第4版(共著:北樹出版), 『思春期心身症の臨床』(共著)などがある。

技術教育専修

技術科教育, 電気, 機械, 情報, 木材加工, 金属加工, 栽培の7分野で構成する。

技術教育は技術の本質, 人間と技術との関わりなどを明確にした上で, (産業に関わる) 科学技術の総合的な教育研究を行うことを特色としており, 産業技術に関する幅広い分野から相互に有機的な関連をもたせて研究していくものである。

このため, 技術教育に関する諸問題について, 専門的, 原理的に研究を行うと同時に, 教育実践と結び付いた具体的問題を理論的に探究し, 指導力や創造的能力の養成を図る。

技術科教育

原田 信一 教授

技術科教育専攻。

「技術科教育特論Ⅰ」, 「技術科教育特別演習Ⅰ」, 「技術科教育実践特別演習」等の授業を担当する。

技術教育の学習意欲, 自己効力, 題材開発と学習内容に関する研究を行っている。

また, 技術的能力の究明を通して, 生徒の状況を分析的に追求し, 技術科教育の在り方を実践的研究から理論を生み出す研究としてその具現化に取り組んでいる。

電気

中峯 浩 准教授

電気・システム工学専攻。

集中管理型システムに代わるシステムを目指して「自律分散システム」の研究を行っている。このシステムは構成要素間の相互作用を通して単なる総和以上の現象が創発するという特徴を持つ。このシステムの一例として, 魚群行動や協同学習などのモデリングおよびシミュレーションなどを行っている。また, ロボットを用いたものづくり教育の考察や社会システムの構築などについても研究調査する。

修士指導: 魚群行動のシミュレーション, 協同学習時の創発現象のモデリング, ロボットによる教育カリキュラムの提案など。

機械

関根 文太郎 特定教授

機械・精密加工工学専攻。

精密研削と精密塑性加工(主にプレス加工)において, 製品精度向上のための最適加工条件の決定方法について研究を行っている。

加工中の諸条件と製作された製品精度を, それぞれ測定・解析して両者の関係を明らかにし, 製品精度向上のための条件を探究して, 工作機械に必要な機構ならびに構造の研究開発を行っている。

また, 計算機により加工のシミュレーションを行い, 実際の加工結果と比較することによって加工現象の解明をめざしている。

情報

伊藤 伸一 准教授

固体(金属・半導体)の電気特性・磁性などの物質科学, ナノテクノロジー電子物性に関する理論的研究。多粒子系の量子統計力学を用いた理論計算。応用として, ハードディスクや電子部品の電氣的, 磁氣的特性の評価などが考えられる。

多田 知正 教授

将来の超広帯域ネットワークを背景とした大規模分散環境における基盤技術の創出をめざして研究を行なっている。

具体的には, アクセス集中や障害発生などの影響を受けにくい高信頼分散システム, 消費電力を考慮したネットワークやデータセンタの構成の検討, 動画共有サービスにおけるアクセスの局所性を考慮したネットワークキャッシュ構成などの研究を行なっている。

栽培

南山 泰宏 教授

栽培植物は人為的な改良により, 野生植物から形態や生態的特性を大きく変えながら, 従来は栽培が困難な地域にも適応できるようになった。

ここでは, 主にトウガラシを材料として, 病気や環境ストレスに強い品種を育成するための遺伝育種学的な研究を行っている。

また, 環境負荷軽減を目的とした微生物等を利用した病害防除技術に関する教材の開発についても研究している。

家政教育専修

家庭科教育, 家庭経営学, 被服学, 食物学, 住居学, 生活工学, 保育学の7分野で構成する。本専修は, 家庭科教育に関わる諸課題について, 人間生活, とくに家庭生活を中心にして, 人と物及び環境の相互作用を総合的に考究する。それらを基礎に教育実践に結び付けるための理論的, 実践的な研究・教育を行う。

家庭科教育

榊原 典子 教授

現在の小・中・高等学校における家庭科の学習支援について主に研究を行っている。

特に家庭科における①子どもの学習活動の特徴と支援のあり方②教材開発とその活用などの方法論に焦点をあてているが, これらに関して③小・中・高等学校家庭科の一貫性④生活自立教育としての家庭科等の内容論にまで及んで取り組んでいる。

井上 えり子 教授

家庭科教員の養成史研究および現代の家庭科教員の実践上の課題を明らかにし, 指導力育成のためのプログラム開発を行っている。

また, 家庭科教育の視点から, 福祉・ボランティア学習の実践に取り組んでいる。このほか, ジェンダー視点を導入した家庭科の授業研究を行っている。

家庭経営学

杉井 潤子 教授

家庭経営学領域を担当し, 家庭経営学および家族関係学分野を中心に研究を進めている。

少子高齢社会における家族の変容と家族問題に焦点をあてて, 社会調査に基づいた実証的研究を進めている。

主な研究テーマは家族をめぐるサポートネットワーク, 祖父母・孫関係, 虐待, 育児介護ケア, ジェロントロジー教育に関する研究である。

被服学

深沢 太香子 准教授

衣生活分野を担当し, 健康, 快適性, 安全性に視点をおいた被服・衣服に関する研究を行っている。

研究では, 衣服に要求される形態的特性や被服素材の物理特性などを, ヒトの生理・心理反応から検討し, より良い衣生活の提案や高機能ウェアの開発に寄与することを目標としている。

食物学

湯川 夏子 教授

食物分野を担当し, 調理学や食文化に関わる内容を中心に研究を進めている。

「料理すること」の重要性を主に研究のテーマとし, 介護予防や認知症高齢者のQOL(生活の質)向上につながる料理活動の支援方法である「料理療法」の確立を目指した実践的研究を行っている。また, 「味覚教育」に関する調査や実践を中心に, 子どもたちや大学生を対象とした食育に関する研究を進めている。食文化の変遷・伝承にも興味を持ち, 京都府の「行事食」や「郷土食」に関する研究も行っている。

住居学

延原 理恵 准教授

住居学分野を担当し, 安全・安心な居住環境に関する研究, 環境設計におけるバリアフリーデザイン, ユニバーサルデザインに関する研究を行っている。

また, 地球環境と住環境のつながりを感じることができるような住教育のあり方について検討し, 自然のポテンシャルを活かす住まい方に関する研究を行う。

生活工学

権 眞煥 講師

生活工学分野を担当し, 家庭や社会において, 生活に有用な技術に関する研究を行っている。

安全で安心, 便利, 快適な家庭・社会環境を構築するために必要となるテクノロジーの提案や生活に関わる生理心理学研究, 情報学研究を進めている。

また, 教育工学の観点から ICT および IoT の導入に関する実践的研究や子供の学習状態, 教師と生徒のコミュニケーション度合を可視化するシステムの構築・評価を行っている。

英語教育専修

英語科教育, 英語学, 英語文学の3分野について, 理論的, 実践的な研究を行う。これらの研究成果を基礎に, 言語と人間についての深い理解を目指す。また, 授業に関する実践的研究を重視して指導力や創造的能力の育成を図るとともに, 講義や演習を通して各分野の学問的特色を生かした教育研究能力を養う。

英語科教育

西本 有逸 教授

教育という営みには, また教育に携わる人間には, 二種類の問い, あるいは働きかけが必要である。ひとつは認識論的な問い (epistemological inquiry) であり, もうひとつは存在論的な問い (ontological inquiry) である。

私は英語科教育にも認識論と存在論両方からのアプローチが必要である, と考えている。外国語としての英語の理解や産出を扱う認識論 (具体的には量的研究による四技能・文法の指導等) だけでなく, 人間の存在や発達に英語科教育がどのような貢献を為し得るのかを身体・言語・情動・人格を基軸に質的に考究している。

特に後者については, ヴィゴツキー・レオンチェフ・バフチン・メルロ＝ポンティ・ハイデガーの諸労作を参照することになっている。

泉 恵美子 教授

英語教育学専攻。英語による異文化間コミュニケーションに関心を持ち, 特にオーラルコミュニケーション, スピーキングやインタラクションにおける挫折と修復, コミュニケーション・ストラテジーをテーマとして, 指導と評価も含め研究を行っている。

また, 学習者と教員の自律を目指し, 内省/探求的手法を取り入れた授業研究に取り組んでいる。

更に, 諸外国のナショナルシラバスや教材を調査・研究し, 日本の小学校英語において, 小中接続や早期英語教育の視点から, 指導と評価のあり方, 特にリタラシー指導やCLIL, 自己効力や有能感を与えるCAN-DO評価やパフォーマンス評価などについて研究している。

授業では, 評価論, 授業研究・カリキュラム論, 児童英語教育を担当する。

Andrew Obermeier 准教授

My main research specialty is the effects of tasks and teaching methods on vocabulary acquisition. With regard to teaching, I am interested in classroom assessment, and finding

methods to effectively motivate learners to develop their knowledge of language, and how to use it fluently in reading, writing, listening, and speaking.

英語学

児玉 一宏 教授

認知言語学・英語学専攻。認知言語学, 特に構文文法 (構文理論) の言語観に基づいて, 文法構文・構文習得理論の研究を進めている。

授業では, A. ゴールドバーグの構文文法およびS. ピンカーの語彙意味論の観点から, 項構造の交替などの構文現象について考察し, 英語という個別言語における「形式と意味の対応関係」を解明することに努めている。

また, 応用言語学の観点からは, 近年の理論言語学の研究成果を英語教育 (現場での英語指導) にどのように活用できるかという問題に取り組んでいる。

英語文学

奥村 真紀 准教授

英語文学専攻。19世紀イギリス, 特にヴィクトリア朝の文学・文化の研究を進めている。

専門は小説, 特にブロンテ姉妹やジョージ・エリオット, メアリー・シェリーなどのヴィクトリア朝の女性作家であり, フェミニズム的, 文化的観点から, フィクションとしての小説の仕組みを語りの構造から分析し, ヴィクトリア朝という特殊な時代における芸術家としての女性の存在を検証している。

また, ヴィクトリア朝小説がどのように舞台化, 映画化され, どのように受容されているかという点にも関心がある。

II. 教育学研究科の教育課程等

授業時間

3時限	12:50~14:20
4時限	14:35~16:05
5時限	16:20~17:50
6時限	18:00~19:30
7時限	19:40~21:10

平成30年度学生便覧から一部を抜粋したものです。事前の手続きが必要な場合や入学前に申請が必要な場合もありますので注意してください。

(1) 修学の形態・方法

① 授業時間帯

教育学研究科の授業時間帯を原則として3時限以降に設定します。

また、6時限(18:00~19:30)、7時限(19:40~21:10)を特に設け、時間割の流動的な編成によって現職教員学生等の修学が容易になるように措置します。

② 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例

第一年次においては、勤務校(研究機関を含む)を離れて本研究科の授業・研究に専念し、原則として、22単位以上を履修するものとします。

第二年次においては、勤務校(研究機関を含む)に復帰し、勤務しながら定期的に通学し、研究科の授業及び指導を受けるものとします。

③ 長期履修学生

職業を有している等の理由により、1年間に修得できる単位数が限られ、標準修業年限(2年)以上の修業を余儀なくされる場合は、本人の申請に基づき審査の上、標準修業年限を超えて計画的に履修することを認め、かつ、その間の授業料負担を軽減することがあります。許可する修業年限は3年または4年です。

入学後(1年次)に「長期履修学生」を申請することも可能ですが、この場合の授業料負担の軽減適用は、翌年度からになります。

長期履修学生が入学後、修学状況等の変動により修業年限を短縮し、申請年度での修了を希望する場合など、修業年限を変更する場合は所定の手続きが必要です。なお、短縮の場合は通常の修業年限(2年)より短縮することはできません。また、所定の算出方式による在学生の数が収容定員を超えている場合は許可されません。

(2) 履修基準及び履修方法

本研究科において修得しなければならない最低の単位数は、次のとおりです。

① 学校教育専攻

専攻	専修	最低修得単位数		
学校教育	学校教育	4単位 本専修の10分野から1分野を選択し、特論1科目2単位と特別演習1科目2単位を修得すること。	4単位 左で選択した分野以外の分野から、4単位を修得すること。	8単位(※) 「学校教育実践総論」2単位を含み、本専修の授業科目から8単位を修得すること。
障害児教育	障害児教育	4単位(※) 障害児教育専攻の授業科目から4単位を修得すること。		
教科教育	教科教育	4単位(※) 教科教育専攻の授業科目から4単位を修得すること。		
課題研究		6単位		
合計		30単位		

(※) 研究科共通科目「教員インターン実習Ⅰ」「教員インターン実習Ⅱ」「教職実践研究」は、※印を付した欄のいずれかに、それぞれ2単位を上限として算入することができる。

(注) 学校教育専修以外の授業科目を履修するときは、特論又は特講の授業科目を選ぶことを原則とし、それ以外の授業科目を選ぶときは、当該授業科目の担当教員から承諾を得なければならない。

②障害児教育専攻

専攻	専修	最低修得単位数		
障害児教育	障害児教育	6単位 本専攻の3分野から1分野を選択し、特論1科目2単位と特別演習を同一A・Bをセットで2科目4単位を修得すること。	4単位 左で選択した分野以外の分野から、特論2科目4単位を修得すること。	4単位(※) 本専攻の授業科目から4単位を修得すること。
学校教育	学校教育	6単位(※) 「学校教育実践総論」2単位を含み、学校教育専攻の授業科目から6単位を修得すること。		
教科教育	教科教育	4単位(※) 教科教育専攻の授業科目から4単位を修得すること。		
課題研究		6単位		
合計		30単位		

(※) 研究科共通科目「教員インターン実習Ⅰ」「教員インターン実習Ⅱ」「教職実践研究」は、※印を付した欄のいずれかに、それぞれ2単位を上限として算入することができる。

(注) 障害児教育専攻以外の授業科目を履修するときは、特論、特講又は「学校教育実践総論」の授業科目を選ぶことを原則とし、それ以外の授業科目を選ぶときは、当該授業科目の担当教員から承諾を得なければならない。

③教科教育専攻

専攻	専修	最低修得単位数		
教科教育	教科教育	教科教育に関する科目	6単位 所属する専攻の教科教育に関する科目から6単位を修得すること。	4単位(※) 本研究科の全専攻の授業科目から4単位を修得すること。
		教科専門に関する科目	6単位 「〇〇〇教科内容論」2単位を含み、所属する専攻の教科専門に関する科目から6単位を修得すること。	
		専修共通科目	2単位 所属する専攻の専修共通科目「〇〇〇実践特別演習」から2単位を修得すること。	
学校教育	学校教育	2単位 学校教育専攻の「学校教育実践総論」2単位を修得すること。	4単位 学校教育専攻及び障害児教育専攻の「特論」又は「特講」科目から4単位を修得すること。	
障害児教育	障害児教育			
課題研究		6単位		
合計		30単位		

(※) 研究科共通科目「教員インターン実習Ⅰ」「教員インターン実習Ⅱ」「教職実践研究」は、※印を付した欄に算入することができる。

(注) 所属専攻以外の授業科目を履修するときは、特論、特講又は「学校教育実践総論」の授業科目を選ぶことを原則とし、それ以外の授業科目を選ぶときは、当該授業科目の担当教員から承諾を得なければならない。

(3) 開設授業科目

開設する授業科目は、「IV. 授業科目一覧」のとおりです。

(4) シラバス

開講する授業科目のシラバスは、本学ホームページから参照できます。

(5) 標準修業年限と長期履修学生の修業年限

標準修業年限は、2年です。ただし、長期履修学生の修業年限は、3年または4年です。

(6) 学位及び修士論文

①本研究科が定める修業年限（「在学期間の特例」及び「長期履修学生」の適用を許可された者は、各々定められた修業年限）を満たし、各専修で定めた授業科目30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（教育学）の学位を授与します。

②各専修においては、修士論文の作成に直結するものとして、学生各自の研究課題について、教員が個別的に指導を行う「課題研究」を設けています。

(7) 指導教員制

授業科目の履修の指導及び研究指導を行うために、次のように指導教員を定める。

①各学生に対して、大学院担当教員の中から2名の指導教員を定める。

②指導教員のうち1名は学生の希望を考慮して専修で決定する。他の1名は専修で指定する。

③指導教員は学生の入学時から修了まで一貫して指導に当たるものとする。

(8) 他大学の大学院における授業科目の履修及び研究指導

①単位互換制度に基づく他大学大学院開設授業科目の履修

本学大学院規則の規定に基づき、他大学の大学院の授業科目を履修申請期間中に、所定の履修申請手続きを行い、当該大学院の履修許可を得て履修することができます。本研究科が国内の大学院と協定している単位互換制度は以下のとおりです。

◎本学大学院が協定を締結している国内の大学院は、次のとおりです。

- ・滋賀大学大学院教育学研究科
- ・大阪教育大学大学院教育学研究科
- ・奈良教育大学大学院教育学研究科
- ・和歌山大学大学院教育学研究科
- ・京都大学大学院教育学研究科

②他大学の大学院又は研究所における研究指導

本学大学院規則の規定に基づき、学生が修士論文を作成するうえで、他大学の大学院又は研究所において研究指導を受ける必要が生じた場合は、他大学の大学院又は研究所における研究指導を受けることができます。

(9) 連合教職実践研究科開設授業科目の履修

教育学研究科学生が本学連合教職実践研究科で開設する授業科目の履修を希望する場合は、次のとおり取り扱います。

- ①教育上有益と認められるときは、教育・研究に支障のない範囲で連合教職実践研究科開設授業科目の履修を認めます。
- ②履修不可の授業科目は、あらかじめ連合教職実践研究科で指定します。
- ③連合教職実践研究科開設授業科目の履修を希望する場合は、事前に指導教員の下承と授業科目担当教員の承認を得た上で、授業開始後1週間以内に連合教職実践研究科開設授業科目履修許可願を教務担当課に提出しなければなりません。
- ④連合教職実践研究科開設授業科目の履修を認める場合は、1年間8単位までです。
- ⑤連合教職実践研究科開設授業科目を履修し認定された単位は、連合教職実践研究科の授業科目として学籍簿に記録します。
- ⑥専修免許状取得目的の場合、履修する授業科目が教育職員免許法に定めるとの単位に該当するかは、あらかじめ教務担当課窓口で確認してください。
- ⑦連合教職実践研究科の授業時間帯は一部異なるので注意してください。

(10) 教育学部開設授業科目の履修

教育学研究科学生が教育学部で開設する授業科目の履修を希望する場合は、次のとおり取り扱います。

- ①教育・研究に支障のない範囲で学部学生の履修に支障が生じない場合は、教育学部開設授業科目の履修を認めます。
ただし、教育実習等の一部科目については、教育学部の実地教育運営委員会の承認が必要となる場合や、事前に実施する説明会への出席が必要な場合もあります。
なお、時間割は予告なしに変更されることがあります。
- ②教育学部開設授業科目の履修を希望する場合は、事前に指導教員の下承と授業科目担当教員の承認を得た上で、授業開始後1週間以内に教育学部開設授業科目履修許可願を教務担当課に提出しなければなりません。
- ③教育学部開設授業科目の履修を認める場合は、原則として1年間12単位までです。
ただし、教員免許状やその他の資格を取得する場合、指導教員の指導を受けて理由書を提出し、承認を得た場合は、特例として1年間20単位まで認める場合があります。
なお、12単位を超えた単位分については、当該単位数に相当する授業料を徴収します。
- ④教育学部開設授業科目を履修し認定された単位は、教育学部の授業科目として学籍簿に記録します。
- ⑤教員免許状やその他の資格を取得する場合で、教育学部で開設する授業科目が教育職員免許法等に定めるとの単位に該当するかは、あらかじめ教務担当課窓口で確認してください。

Ⅲ. 教育職員免許状，その他の資格について

(1) 教育職員免許状取得要件

- ① 所要資格については，教育職員免許法別表第一に規定されています。
- ② 本研究科で取得できる専修免許状の種類及び教科は「別表」のとおりです。
各自が取得しようとする専修免許状に応じて，必要な単位数を修得しなければなりません。

本研究科で開設する授業科目は，専修免許状取得のための科目で，一種及び二種免許状取得には使用できません。

- ③ 現職教員又は教員在職経験者で，在職年数を基礎に教育職員検定（免許法第6条）により教育職員免許状を取得しようとするなどの場合は，教育職員検定の方法及び最低必要単位数を，事前に住所地又は勤務地の都道府県教育委員会で確認しておいてください。

(2) 教育職員免許以外の資格

① 「臨床心理士」受験資格

本学の大学院教育学研究科学校教育専攻教育臨床心理学分野では，（財）日本臨床心理士資格認定協会の指定大学院（第1種）の指定を受けています。

学校教育専攻教育臨床心理学分野を専攻する者で，所定の単位を修得して大学院を修了後，資格試験を受験することができます。

「臨床心理士」受験資格の取得を希望する者は，**2年間の昼間の実習活動が可能**であること。

② 「学校心理士」資格

学校教育専修，障害児教育専修では，「学校心理士」資格認定に必要な授業科目を開設しています。学校心理士認定運営機構には，日本教育心理学会，日本特殊教育学会，日本発達障害学会，日本発達心理学会，日本LD学会，日本学校心理学会，日本応用教育心理学会，日本生徒指導学会，日本学校カウンセリング学会，日本コミュニケーション障害学会，日本学校メンタルヘルス学会が参加し，資格認定を行っています。

学校心理学に関する実務経験を有し，所定の単位を修得すれば受験することができます。受験に際しては，筆記試験とケースレポートの提出が必要となります。

平成23年度から新基準に基づく認定が行われています。

③ 「臨床発達心理士」受験資格

「臨床発達心理士」受験資格申請に必要な科目を開設しています。

学校教育専修の教育学・幼児教育学コースの幼児教育学と教育・発達心理学コース及び障害児教育専修では，臨床発達心理士の資格取得申請のために必要な授業の一部が開設されています。大学院において発達・教育心理学またはその隣接諸科学を専攻し，本学大学院または他大学院の開設科目（単位互換制度を活用）等の所定の単位（実習・ケースレポート等を含む）を修得することが必要です。

また，臨床発達心理士の資格試験には，資格認定機構による単位内容等についての審査があります。資格認定を希望する場合は，必要条件・申請書類などについて次の事務局に問い合わせてください。（今後も，授業担当者や認定機構の基準変更等により，内容変更の可能性ががあります。）

「臨床発達心理士」資格認定運営機構事務局

〒160-0023 新宿区西新宿 6-20-12 山口ビル 8F Fax 03-6304-5705

ホームページ <http://www.jocdp.jp/>

④専修免許状への「学校心理学」付記について

学校教育専修の心理学関係分野（教育・発達心理学，教育臨床心理学，幼児教育学）に所属し，学校心理学に関する所定の10領域22単位以上を修得し，大学院を修了すれば，専修免許状の所定欄に「学校心理学」が付記されます。

（3）現職教員学生等の事務取扱について

本学の事務取扱時間は17時までとなっていますが，現職教員等で，本務の都合により17時以降の授業のみ受講している場合は，所定の手続きを行うことにより，事務特例対応を受けることができます。

別表

本研究科で取得できる専修免許状の種類及び教科等

(※教職再課程認定申請中。文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。)

	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
教育学研究科	○	○	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 — — 保健体育 技術 家庭 — — 外国語(英語)	国語 地理歴史 公民 数学 理科 音楽 美術 工芸 書道 保健体育 — 家庭 農業 工業 外国語(英語)	知的障害 肢体不自由 病弱

1. 専修免許状の取得には、当該1種免許状を有しているか、取得要件を満たしていることが必要です。

2. 各自が取得しようとする専修免許状に応じて、必要な単位数を修得しなければなりません。

IV. 授業科目一覧

平成30年度

◎学校教育専攻
○学校教育専修

コース名	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
(教育学・幼児教育学コース)	教育学・教育史	教育哲学特論	2	准教授 相澤 伸幸	
		学校教育実践総論Ⅰ	2	准教授 相澤 伸幸	
		教育哲学特別演習	2	准教授 相澤 伸幸	
		学校教育実践総論Ⅱ	2	准教授 神代 健彦	
		教育史特論	2	准教授 神代 健彦	
		教育史特別演習	2	准教授 神代 健彦	
	学校経営	公教育経営特論	2	教授 榑原 禎宏	
		公教育経営特別演習	2	教授 榑原 禎宏	
		学校教育実践総論Ⅳ	2	教授 榑原 禎宏	
	教育社会学	教育社会学特論	2	教授 村上 登司文	
		教育社会学特別演習	2	教授 村上 登司文	
		学校教育実践総論Ⅲ	2	教授 村上 登司文	
		社会教育特講	2	非常勤講師 片岡 弘勝	
		学校教育実践総論Ⅳ	2	教授 伊藤 悦子	
		人権教育特論	2	教授 伊藤 悦子	
	教育内容・方法論	学校教育実践総論Ⅴ	2	准教授 樋口 とみ子	
		教育課程論特論	2	准教授 樋口 とみ子	
		教育課程論特別演習	2	准教授 樋口 とみ子	
		学校教育実践総論Ⅴ	2	教授 徳岡 慶一	
		教育方法学特別演習	2	教授 徳岡 慶一	
		教育方法学特論	2	教授 徳岡 慶一	
	道德教育	道德教育特論	2	非常勤講師 石井 英真	
		道德教育特別演習Ⅰ	2		
		道德教育特別演習Ⅱ	2		
	幼児教育学	幼児教育学特論	2	准教授 古賀 松香	
		幼児教育学特別演習	2	准教授 古賀 松香	
		学校教育実践総論Ⅵ	2	准教授 古賀 松香	
		幼児教育臨床特論	2	准教授 東村 知子	
		幼児教育臨床特別演習	2	准教授 東村 知子	
		学校教育実践総論Ⅵ	2	准教授 東村 知子	
		幼児心理学特論	2	非常勤講師 佐川 早季子	
		学校教育実践総論Ⅶ	2	教授 平井 恭子	
		幼児心理学特別演習	2	非常勤講師 佐川 早季子	
		幼児教育内容特論	2	教授 平井 恭子	
	実践教育	幼児教育内容特別演習	2	教授 平井 恭子	
		学校教育実践総論Ⅶ	2	教授 高柳 真人	
		教師教育学特論	2	教授 高柳 真人	
		教師教育学特別演習	2	教授 高柳 真人	
		学校教育実践総論Ⅷ	2	教授 関口 久志	
	(教育・発達心理学コース)	教育心理学	教育心理学特論Ⅰ	2	准教授 伊藤 崇達
			教育心理学特別演習Ⅰ	2	准教授 伊藤 崇達
			教育心理学特論Ⅱ	2	教授 藤岡 秀樹
			教育心理学特別演習Ⅱ	2	教授 藤岡 秀樹
			進路指導特論	2	教授 藤岡 秀樹
			学校教育実践総論Ⅷ	2	准教授 伊藤 崇達
学校教育実践総論Ⅸ			2	教授 藤岡 秀樹	
教育社会心理学特講			2	非常勤講師 石井 滋	
測定・検査論特講			2	非常勤講師 田中 あゆみ	
教育心理査定実習			1	教授 藤岡 秀樹 准教授 西村 佐彩子	
発達心理学		学校カウンセリング特講	2	非常勤講師 多賀谷 智子	
		学校心理学・カウンセリング実習	1	非常勤講師 家近 早苗	
		生徒指導・学校教育相談特講	2	非常勤講師 粕谷 貴志	
		発達心理学特論	2	准教授 田爪 宏二	
		発達心理学特別演習	2	准教授 田爪 宏二	
学校教育実践総論Ⅹ	2	准教授 田爪 宏二			
認知発達論特別演習	2				
言語発達心理学特講	2	非常勤講師 高橋 登			
情意発達心理学特講	2				
社会性の発達支援特講	2	非常勤講師 亀口 公一			

コース名	分野	授業科目名	単位数	担当教員		
(教育臨床心理学コース)	教育臨床心理学	臨床心理学特論Ⅰ	2	教授 内田 利広		
		臨床心理学特論Ⅱ	2	教授 本間 友巳		
		臨床心理基礎実習	2	教授 本間 友巳		
		臨床心理査定演習Ⅰ	2	准教授 西村 佐彩子		
		臨床心理査定演習Ⅱ	2	准教授 西村 佐彩子		
		臨床心理面接特論Ⅰ	2	教授 本間 友巳		
		臨床心理面接特論Ⅱ	2	教授 内田 利広		
		臨床心理実習	2	教授 本間 友巳 教授 森 孝宏 教授 内田 利広 教授 小松 貴弘 准教授 西村 佐彩子		
			病院臨床実習	2	教授 本間 友巳 教授 森 孝宏 教授 内田 利広 准教授 西村 佐彩子	
				学校カウンセリング実習	2	教授 内田 利広
				投映法特講	2	非常勤講師 濱野 清志
			家族心理学特講	2	非常勤講師 吉川 悟	
			学校臨床心理学特講	2	非常勤講師 小泉 隆平	
		生徒指導特講	2	非常勤講師 北口 雄一		
		臨床心理学研究法特論	2	非常勤講師 真崎 由美子		
		臨床心理学特別演習	2	教授 本間 友巳 教授 森 孝宏 教授 内田 利広 准教授 西村 佐彩子		
			コミュニティ・アプローチ特論	2	非常勤講師 三林 真弓	
			心身医学特論	2	教授 森 孝宏	
		精神医学特論	2	教授 森 孝宏		
		学校臨床実習	2	教授 本間 友巳		
		心理療法特論	2	教授 小松 貴弘		
		学校教育実践総論ⅩⅠ	2	教授 本間 友巳 教授 内田 利広 教授 森 孝宏 准教授 西村 佐彩子		
			専修共通	課題研究	6	関連教員
			研究科共通科目 (教職実践に関する科目)	教員インターン実習Ⅰ	2	関連教員
		教員インターン実習Ⅱ		2	関連教員	
		教職実践研究		2	関連教員	

◎障害児教育専攻

○障害児教育専修

分野	授業科目名	単位数	担当教員	
障害児教育	発達障害教育特論	2	准教授	丸山 啓史
	発達障害教育特別演習A	2	准教授	丸山 啓史
	発達障害教育特別演習B	2	准教授	丸山 啓史
	発達障害教育方法特論	2	教授	相澤 雅文
	発達障害教育方法特別演習A	2	教授	佐藤 克敏
	発達障害教育方法特別演習B	2	教授	佐藤 克敏
	発達障害教育特講	2	非常勤講師	山崎 由可里
障害児心理	発達障害心理特論 I	2	准教授	佐藤 美幸
	発達障害心理特別演習 I A	2	准教授	佐藤 美幸
	発達障害心理特別演習 I B	2	准教授	佐藤 美幸
	発達障害心理特論 II	2		
	発達障害心理特別演習 II A	2		
	発達障害心理特別演習 II B	2		
	発達障害心理特講	2	非常勤講師	田中 善大
	発達障害心理特論 III	2		
障害児生理・病理	発達障害生理・病理特論 I	2	准教授	牛山 道雄
	発達障害生理・病理特別演習 I A	2	准教授	牛山 道雄
	発達障害生理・病理特別演習 I B	2	准教授	牛山 道雄
	発達障害生理・病理特論 II	2	教授	小谷 裕実
	発達障害生理・病理特別演習 II A	2	教授	小谷 裕実
	発達障害生理・病理特別演習 II B	2	教授	小谷 裕実
	発達障害生理・病理特講	2	非常勤講師	高野 美由紀
専修共通	発達障害臨床実習 I A	1	教授	相澤 雅文
	発達障害臨床実習 I B	1	教授	相澤 雅文
	発達障害臨床実習 II A	1		
	発達障害臨床実習 II B	1		
	特別支援教育事例研究	2	教授	佐藤 克敏
	課題研究	6		関連教員
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)	教員インターン実習 I	2		関連教員
	教員インターン実習 II	2		関連教員
	教職実践研究	2		関連教員

◎教科教育専攻

○国語教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教科 教育に 関する 科目	国語科 教育	国語科教育特論	2	准教授	寺田 守
		国語科教育特別演習 I	2	准教授	寺田 守
		国語科教育特別演習 II	2	教授	植山 俊宏
		国語科授業研究	2	教授	植山 俊宏
教科専門 に関する 科目	国文学	国文学特論 I	2	准教授	中俣 尚己
		国文学特論 II	2	准教授	中俣 尚己
	国文学	国文学特論 I	2	准教授	天野 知幸
		国文学特論 II	2	教授	宗雪 修三
	漢文学	漢文学特論 I	2	教授	谷口 匡
		漢文学特論 II	2	教授	谷口 匡
	言語学	応用言語学特論 I	2	教授	濱田 麻里
		応用言語学特論 II	2	教授	濱田 麻里
	(教科 内容論)	国語科教育教科内容論 I	2	准教授	中俣 尚己
		国語科教育教科内容論 II	2	准教授	中俣 尚己
		国語科教育教科内容論 III	2	准教授	天野 知幸
		国語科教育教科内容論 IV	2	教授	宗雪 修三
国語科教育教科内容論 V		2	教授	谷口 匡	
国語科教育教科内容論 VI		2	教授	濱田 麻里	
通専 科目共	国語科教育実践特別演習 I	2	准教授	寺田 守ほか	
	国語科教育実践特別演習 II	2	教授	植山 俊宏ほか	
	課題研究	6		関連教員	
研究科共通科目 (教職実践に 関する科目)	教員インターン実習 I	2		関連教員	
	教員インターン実習 II	2		関連教員	
	教職実践研究	2		関連教員	

○社会科教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教科 教育に 関する 科目	社会科 教育	社会科教育特論 I	2	教授	山下 宏文
		社会科教育特別演習 I	2	教授	山下 宏文
		社会科教育特論 II	2	教授	山下 宏文
		社会科教育特別演習 II	2		
教科専門 に関する 科目	歴史	日本史特論 I	2	講師	中村 翼
		日本史特論 II	2	講師	中村 翼
		近現代史特論 I	2	准教授	武島 良成
		近現代史特論 II	2	准教授	武島 良成
		西洋史特論 I	2	講師	斉藤 恵太
		西洋史特論 II	2	講師	斉藤 恵太
	地理	地理学特論 I	2	教授	香川 貴志
		地理学特論 II	2	教授	香川 貴志
	政治	政治学特論 I	2	教授	荻野 雄
		政治学特論 II	2	教授	荻野 雄
	法律	法学特論 I	2	講師	比良 友佳理
		法学特論 II	2	講師	比良 友佳理
	経済	経済学特論 I	2	教授	石川 誠
		経済学特論 II	2	教授	石川 誠
	社会学	社会学特論 I	2	准教授	土屋 雄一郎
		社会学特論 II	2	准教授	土屋 雄一郎
	倫理学・ 哲学	社会哲学特論 I	2	教授	平石 隆敏
		社会哲学特論 II	2	教授	平石 隆敏
	(教科 内容論)	社会科教育教科内容論 I	2	講師	中村 翼
		社会科教育教科内容論 II	2	准教授	武島 良成
社会科教育教科内容論 III		2	講師	斉藤 恵太	
社会科教育教科内容論 IV		2	教授	香川 貴志	
社会科教育教科内容論 V		2	教授	香川 貴志	
社会科教育教科内容論 VI		2	教授	荻野 雄	
社会科教育教科内容論 VII		2	講師	比良 友佳理	
社会科教育教科内容論 VIII		2	教授	石川 誠	
社会科教育教科内容論 IX		2	准教授	土屋 雄一郎	
社会科教育教科内容論 X		2	教授	平石 隆敏	
通専 科目共	社会科教育実践特別演習	2		関連教員	
	課題研究	6		関連教員	
	教員インターン実習 I	2		関連教員	
研究科共通科目 (教職実践に 関する科目)	教員インターン実習 II	2		関連教員	
	教職実践研究	2		関連教員	

○数学教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教する科目に	数学科教育	算数・数学科教育特論Ⅰ	2	教授	黒田 恭史
		算数・数学科教育特別演習Ⅰ	2	教授	黒田 恭史
		算数・数学科教育特論Ⅱ	2	教授	柳本 哲
		算数・数学科教育特別演習Ⅱ	2	教授	柳本 哲
教科専門に関する科目	代数学	代数学特論Ⅰ	2	准教授	宮崎 充弘
		代数学特論Ⅱ	2	非常勤講師	西村 純一
	幾何学	幾何学特論Ⅰ	2	准教授	横山 知郎
		幾何学特論Ⅱ	2	非常勤講師	原田 雅名
	解析学	解析学特論Ⅰ	2	教授	深尾 武史
		解析学特論Ⅱ	2	教授	大竹 博巳
	情報学・学	情報数学特論	2	講師	川原田 茜
	(教科内容論)	算数・数学科教育教科内容論Ⅰ	2	准教授	宮崎 充弘
		算数・数学科教育教科内容論Ⅱ	2	准教授	宮崎 充弘
		算数・数学科教育教科内容論Ⅲ	2	准教授	横山 知郎
		算数・数学科教育教科内容論Ⅳ	2	准教授	横山 知郎
		算数・数学科教育教科内容論Ⅴ	2	教授	深尾 武史
		算数・数学科教育教科内容論Ⅵ	2	教授	大竹 博巳
		算数・数学科教育教科内容論Ⅶ	2	講師	川原田 茜
	通専科修目共	算数・数学科教育実践特別演習Ⅰ	2		関連教員
		算数・数学科教育実践特別演習Ⅱ	2		関連教員
		課題研究	6		関連教員
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)	教員インターン実習Ⅰ	2		関連教員	
	教員インターン実習Ⅱ	2		関連教員	
	教職実践研究	2		関連教員	

○音楽教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教する科目に	音楽科教育	音楽科教育特論	2	准教授	櫻下 達也
		音楽科教育特別演習	2	准教授	櫻下 達也
		音楽科教育授業研究	2	教授	清村 百合子
		音楽科教育実践演習	2	教授	清村 百合子
教科専門に関する科目	器楽	器楽特論Ⅰ	2	教授	小笠原 真也
		器楽特論Ⅱ	2	教授	山口 博明
		器楽特論Ⅲ	2	教授	小笠原 真也
		器楽特論Ⅳ	2	教授	山口 博明
	声楽	声楽特論Ⅰ	2	准教授	田邊 織恵
		声楽特論Ⅱ	2	准教授	田邊 織恵
	作曲・指揮法	作曲特論Ⅰ	2	講師	増田 真結
		作曲特論Ⅱ	2	講師	増田 真結
		指揮法特論Ⅰ	2	非常勤講師	藏野 雅彦
		指揮法特論Ⅱ	2	非常勤講師	藏野 雅彦
		音楽学	音楽学特論Ⅰ	2	教授
	音楽学特論Ⅱ		2	教授	田中 多佳子
	(教科内容論)	音楽科教育教科内容論Ⅰ	2	教授	山口 博明
		音楽科教育教科内容論Ⅱ	2	准教授	田邊 織恵
		音楽科教育教科内容論Ⅲ	2	講師	増田 真結
		音楽科教育教科内容論Ⅳ	2	教授	小笠原 真也
	通専科修目共	音楽科教育実践特別演習	2	教授	田中 多佳子
課題研究		6		関連教員	
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)	教員インターン実習Ⅰ	2		関連教員	
	教員インターン実習Ⅱ	2		関連教員	
	教職実践研究	2		関連教員	

○理科教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教する科目に	理科教育	理科教育特論Ⅰ	2	准教授	中野 英之
		理科教育特別演習Ⅰ	2	准教授	中野 英之
		理科教育特論Ⅱ	2	教授	村上 忠幸
		理科教育特別演習Ⅱ	2	教授	村上 忠幸
教科専門に関する科目	物理学	物理学特論Ⅰ	2		
		物理学特論Ⅱ	2	教授	高嶋 隆一
		物理学特論Ⅲ	2	教授	谷口 和成
	化学	化学特論Ⅰ	2	講師	鈴木 祥子
		化学特論Ⅱ	2	准教授	巻本 彰一
		化学特論Ⅲ	2	教授	向井 浩
	生物学	生物学特論Ⅰ	2	准教授	今井 健介
		生物学特論Ⅱ	2	講師	藤浪 理恵子
		生物学特論Ⅲ	2		
		生物学特論Ⅳ	2	教授	梶原 裕二
	地学	地学特論Ⅰ	2	教授	田中 里志
		地学特論Ⅱ	2	准教授	谷口 慶祐
	(教科内容論)	理科教育教科内容論Ⅰ	2		関連教員
		理科教育教科内容論Ⅱ	2		関連教員
		理科教育教科内容論Ⅲ	2		関連教員
		理科教育教科内容論Ⅳ	2		関連教員
	通専科修目共	理科教育実践特別演習Ⅰ	2		関連教員
理科教育実践特別演習Ⅱ		2		関連教員	
課題研究		6		関連教員	
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)	教員インターン実習Ⅰ	2		関連教員	
	教員インターン実習Ⅱ	2		関連教員	
	教職実践研究	2		関連教員	

○美術教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教する科目に	美術科教育	美術科教育特論Ⅰ	2	准教授	日野 陽子
		美術科教育特論Ⅱ	2	教授	村田 利裕
		書道教育特論	2	教授	岡田 直樹
		美術科教育特別演習	2	准教授	日野 陽子
		美術科授業特別研究	2	教授	村田 利裕
			2	非常勤講師	小林 良子
教科専門に関する科目	絵画	絵画特論	2	非常勤講師	小林 良子
	彫刻	彫刻特論	2	教授	谷口 淳一
	工芸	工芸特論	2	教授	丹下 裕史
	イデ	デザイン特論	2	教授	安江 勉
	書道	書道特論	2	教授	岡田 直樹
	美術史論	美術史特論	2	講師	山内 朋樹
		美学・芸術学特論	2	講師	山内 朋樹
	(教科内容論)	美術科教育教科内容論Ⅰ	2	非常勤講師	小林 良子
		美術科教育教科内容論Ⅱ	2		
		美術科教育教科内容論Ⅲ	2	教授	谷口 淳一
		美術科教育教科内容論Ⅳ	2		
		美術科教育教科内容論Ⅴ	2	教授	丹下 裕史
美術科教育教科内容論Ⅵ		2	教授	安江 勉	
美術科教育教科内容論Ⅶ		2	講師	山内 朋樹	
通専科修目共	書道教育教科内容論	2	教授	岡田 直樹	
	美術科教育実践特別演習	2		関連教員	
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)	課題研究	6		関連教員	
	教員インターン実習Ⅰ	2		関連教員	
	教員インターン実習Ⅱ	2		関連教員	
	教職実践研究	2		関連教員	

○保健体育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
教科教育に関する科目	保健体育科教育	保健体育科教育特論Ⅰ	2	教授	井谷 恵子
		保健体育科教育特別演習Ⅰ	2	教授	井谷 恵子
		保健体育科教育特論Ⅱ	2	非常勤講師	大川 尚子
		保健体育科教育特別演習Ⅱ	2	非常勤講師	大川 尚子
		保健体育科教育特論Ⅲ	2	准教授	小松崎 敏
		保健体育科教育特別演習Ⅲ	2	准教授	小松崎 敏
教科専門に関する科目	体育学	体育学特論	2	准教授	林 英彰
		体育経営管理学特論	2	教授	中 比呂志
		野外教育学特論	2	准教授	遠藤 浩
	運動学	体力科学特論	2	非常勤講師	野村 照夫
		身体運動学特論	2	准教授	小山 宏之
		武道方法特論	2	教授	藪根 敏和
	学校保健	学校保健特論Ⅰ	2	教授	井上 文夫
		学校保健特論Ⅱ	2	教授	森 孝宏
	(教科内容論)	保健体育科教育教科内容論Ⅰ	2	准教授	林 英彰
		保健体育科教育教科内容論Ⅱ	2		
		保健体育科教育教科内容論Ⅲ	2	教授	中 比呂志
		保健体育科教育教科内容論Ⅳ	2		
		保健体育科教育教科内容論Ⅴ	2	准教授	遠藤 浩
		保健体育科教育教科内容論Ⅵ	2	非常勤講師	野村 照夫
		保健体育科教育教科内容論Ⅶ	2	准教授	小山 宏之
保健体育科教育教科内容論Ⅷ		2	教授	藪根 敏和	
保健体育科教育教科内容論Ⅸ		2	教授	井上 文夫	
保健体育科教育教科内容論Ⅹ	2	教授	森 孝宏		
通専科修目共		保健体育科教育実践特別演習	2	教授 教授	中 比呂志 藪根 敏和
		課題研究	6		関連教員
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)		教員インターン実習Ⅰ	2		関連教員
		教員インターン実習Ⅱ	2		関連教員
		教職実践研究	2		関連教員

○家政教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教科教育に関する科目	家庭科教育	家庭科教育特論Ⅰ	2	教授	井上 えり子
		家庭科教育特別演習Ⅰ	2	教授	井上 えり子
		家庭科教育特論Ⅱ	2	教授	榊原 典子
		家庭科教育特別演習Ⅱ	2	教授	榊原 典子
教科専門に関する科目	被服学	被服学特論	2	准教授	深沢 太香子
	食物学	食物学特論	2	教授	湯川 夏子
	住居学	住居学特論	2	准教授	延原 理恵
	経営学 家庭学	家庭経営学特論	2	教授	杉井 潤子
	保育学	保育学特論	2	非常勤講師	中川 愛
	生活工学	生活工学特論	2	講師	権 真煥
	(教科内容論)	家庭科教育教科内容論Ⅰ	2	准教授	深沢 太香子
家庭科教育教科内容論Ⅱ		2	講師	権 真煥	
家庭科教育教科内容論Ⅲ		2	教授	湯川 夏子	
家庭科教育教科内容論Ⅳ		2	准教授	延原 理恵	
家庭科教育教科内容論Ⅴ		2	教授	杉井 潤子	
家庭科教育教科内容論Ⅵ		2	非常勤講師	中川 愛	
通専科修目共		家庭科教育実践特別演習Ⅰ	2		関連教員
		家庭科教育実践特別演習Ⅱ	2		関連教員
		課題研究	6		関連教員
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)		教員インターン実習Ⅰ	2		関連教員
		教員インターン実習Ⅱ	2		関連教員
		教職実践研究	2		関連教員

○技術教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教科教育に関する科目	技術科教育	技術科教育特論Ⅰ	2	教授	原田 信一
		技術科教育特別演習Ⅰ	2	教授	原田 信一
		技術科教育特論Ⅱ	2	非常勤講師	土屋 英男
		技術科教育特別演習Ⅱ	2	非常勤講師	土屋 英男
教科専門に関する科目	電気	電気工学特論	2	准教授	中峯 浩
	機械	機械工学特論	2	教授	関根 文太郎
	情報	情報学特論Ⅰ	2	准教授	伊藤 伸一
		情報学特論Ⅱ	2	教授	多田 知正
	木材加工	木材加工特論	2	非常勤講師	谷口 義昭
	金属加工	材料工学特論	2	非常勤講師	森田 辰郎
	栽培	栽培学特論Ⅰ	2	教授	南山 泰宏
		栽培学特論Ⅱ	2		
	(教科内容論)	技術科教育教科内容論Ⅰ	2	教授	関根 文太郎ほか
		技術科教育教科内容論Ⅱ	2	准教授	伊藤 伸一ほか
		技術科教育教科内容論Ⅲ	2	准教授	中峯 浩ほか
技術科教育教科内容論Ⅳ		2	教授	南山 泰宏ほか	
通専科修目共		技術科教育実践特別演習	2	教授	原田 信一ほか
		課題研究	6		関連教員
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)		教員インターン実習Ⅰ	2		関連教員
		教員インターン実習Ⅱ	2		関連教員
		教職実践研究	2		関連教員

○英語教育専修

科目	分野	授業科目名	単位数	担当教員	
関教科教育に関する科目	英語科教育	英語科教育特論Ⅰ	2	教授	西本 有逸
		英語科教育特別演習Ⅰ	2	教授	西本 有逸
		英語科教育特論Ⅱ	2	教授	西本 有逸
		英語科教育特別演習Ⅱ	2	教授	泉 恵美子
		英語科教育特論Ⅲ	2	准教授	アント'リュ-オー'ハマイヤ
		英語科教育特別演習Ⅲ	2	准教授	アント'リュ-オー'ハマイヤ
		英語科教育特論Ⅳ	2	教授	泉 恵美子
		英語科教育特別演習Ⅳ	2	教授	泉 恵美子
教科専門に関する科目	英語学	英語学特論Ⅰ	2		
		英語学特論Ⅱ	2	教授	児玉 一宏
		英語学特論Ⅲ	2		
		英語学特論Ⅳ	2	教授	児玉 一宏
	英語文学	英語文学特論Ⅰ	2		
		英語文学特論Ⅱ	2	准教授	奥村 真紀
		英語文学特論Ⅲ	2		
		英語文学特論Ⅳ	2	准教授	奥村 真紀
	(教科内容論)	英語科教育教科内容論Ⅰ	2		
		英語科教育教科内容論Ⅱ	2	教授 准教授	児玉 一宏 奥村 真紀
		英語科教育教科内容論Ⅲ	2		
		英語科教育教科内容論Ⅳ	2	教授 准教授	児玉 一宏 奥村 真紀
	通専科修目共		英語科教育実践特別演習	2	教授 准教授
		課題研究	6		関連教員
研究科共通科目 (教職実践に関する科目)		教員インターン実習Ⅰ	2		関連教員
		教員インターン実習Ⅱ	2		関連教員
		教職実践研究	2		関連教員

V. 入学者選抜について

----- 京都教育大学大学院教育学研究科アドミッション・ポリシー -----

教育学研究科は、教科及び現代の教育の諸課題を探究するに足る高度な専門性と分析力を養い、学校教育における確かな実践力を培います。また、現職教員には、新たな知識と視野を与え、現場での指導力の深化と向上を図ることを、大切な方針としています。そのため、本研究科では、教育職員免許状を有し、以下のような意欲・資質をそなえた人材を広く求めます。

1. 教育一般や教科教育に関する基本的な知識及び技能をそなえ、また修了後は教員として学校教育に携わる強い意欲を持つこと
2. 教育の現場において現代の多様な教育的諸課題を認識し、その課題解決に向けて主体的、協働的に取り組む意欲を持つこと
3. 教育や教科の専門分野に関する基本的な理解を基にして、理論と実践との往還のなかで自らの関心や問題意識によって思考し、探究できること
4. 自らの研究を遂行し論文にまとめるために必要とされる課題探究力及び論理的な思考力・判断力・表現力を有すること

なお、外国人留学生については、本研究科において専門的視野や知識、教育方法を身につけ、いずれの国においてであれ、学校教育に貢献していこうとする強い意欲を有する人材を受け入れます。

◆ 募集人員

- ◇ 学校教育専攻 17名
学校教育専修
(教育学・幼児教育学コース、教育・発達心理学コース、教育臨床心理学コース)
- ◇ 障害児教育専攻 5名
障害児教育専修
- ◇ 教科教育専攻 35名
国語教育専修、社会科教育専修、数学教育専修、理科教育専修、音楽教育専修、
美術教育専修、保健体育専修、技術教育専修、家政教育専修、英語教育専修

◆ 出願資格

○ A型入試（一般受験者対象）

教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第4条第2項に規定する「普通免許状」を有する者及び平成31年3月31日までに取得見込みの者で、かつ、次のいずれかに該当する者及び平成31年3月31日までに該当見込みの者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (6) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者

(7) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

○ **B型入試（現職教員等対象）**

A型入試（一般受験者対象）の出願資格に該当し、次の要件を満たす者

日本の教育関係機関（学校教育法第1条に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校並びに都道府県若しくは市区町村の教育委員会及び国公立の教育研究所等）において教員等（常勤）として平成31年3月31日までに3年以上の経験を有する者

なお、幼稚園教諭免許状を有する者で、幼保連携型認定こども園において教員等（常勤）として平成31年3月31日までに3年以上の経験を有する者も現職教員等に含むものとする。

○ **C型入試（外国人留学生対象）**

日本国籍を有しない者で、次のいずれかに該当する者及び平成31年3月31日までに該当見込みの者

(1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(2) 外国において、学校教育における12年の課程を修了し、日本において大学を卒業した者

(3) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

◆ **選抜方法**

入学者の選抜は、学力検査等の成績及び成績証明書等の内容を総合して判定する。

◆ **学力検査**

筆記試験 [専門科目 (実技を含む)、外国語又は小論文]、口述試験

※学力検査の内容は、各専修、出願区分 (A型・B型・C型) により異なるので、詳細は本年度発行の募集要項で必ず確認すること。

◆ **出願期間**

平成30年8月1日 (水) ~ 8月6日 (月)

◆ **学力検査日**

平成30年9月15日 (土)

◆ **合格発表**

平成30年9月28日 (金) 予定

◆ **検定料**

30,000円

◆ **入学料**

282,000円

◆ **授業料 (年額)**

535,800円

◆ **第2次募集について**

合格者数によっては、第2次募集を実施 (平成31年2月上旬) することがある。

実施の有無及び募集を行う専攻・専修については、平成30年11月上旬に公表する。

大学案内図



交通案内

- JR利用者
JR奈良線・JR藤森駅下車 徒歩3分
- 京阪電車利用者
京阪・墨染駅下車 徒歩10分
- 近鉄電車利用者
近鉄・丹波橋駅で京阪電車に乗り換え
墨染駅下車

京都教育大学 教務・入試課入試グループ

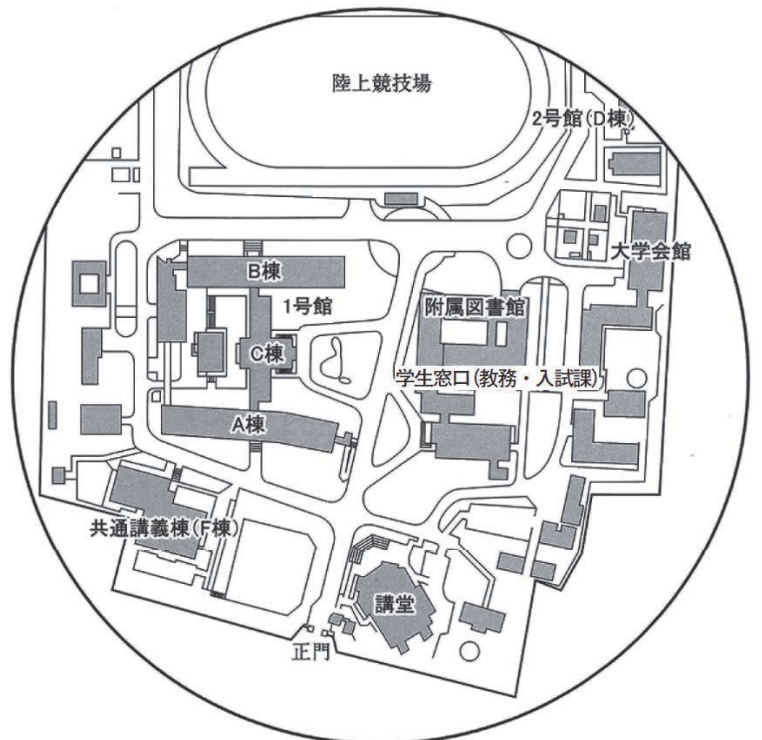
《所在地》

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地

《電話番号》

075-644-8161

学内図





国立大学法人

京都教育大学

KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION

教務・入試課入試グループ